

## 東アジアの成長を生かした活力ある国土形成の現状と課題について(資料編)

### 1 東アジアと日本の相対関係の変化は

|                             |    |
|-----------------------------|----|
| 東アジアにおけるGDPの国際比較            | 1  |
| 世界の各地域及び我が国の人口の展望           | 2  |
| 東アジアにおける年齢階層別人口             | 3  |
| 日本及び東アジア各国間の輸出動向            | 4  |
| 東アジアにおける日本企業の進出状況           | 5  |
| 海外生産比率                      | 6  |
| アジア諸国の商品別輸出入の状況             | 7  |
| 我が国とアジア諸国の技術開発の水準比較         | 8  |
| 我が国とアジア諸国の技術開発の水準比較(研究開発関連) | 9  |
| 水平分業の進展                     | 10 |
| アジア諸国の直接投資受入動向と一人当たりGDP     | 11 |
| 中国貿易における日、米、EUの動向           | 12 |

### 2 東アジアと日本の国際交流の進展・阻害要因

|                       |    |
|-----------------------|----|
| 世界とアジアの自由貿易協定(FTA)の動き | 13 |
| 世界の自由貿易協定(FTA)の動き     | 14 |
| 査証(ビザ)の免除の状況について      | 15 |
| 我が国ポップカルチャーの東アジアへの浸透  | 16 |
| 日本語の東アジアへの浸透          | 17 |

### 3 地域の競争力、魅力を高める連携の実態

|                                                 |    |
|-------------------------------------------------|----|
| 我が国の地方ブロックとヨーロッパ中規模国家の比較                        | 18 |
| ヨーロッパ中規模国家における国際競争力を有する産品                       | 19 |
| 我が国の主要輸出品目製造業のブロック別企業分布                         | 20 |
| 外資系企業立地の動向                                      | 21 |
| 賃金、事務所賃料等、通信費、公共料金、税制                           | 22 |
| IMD国際競争力                                        | 23 |
| 産業クラスター計画(経済産業省)                                | 24 |
| 知的クラスター計画(文部科学省)                                | 25 |
| 承認TLO(33機関)の分布                                  | 26 |
| 承認TLOの特許出願件数とロイヤリティ収入の推移、国立大学等における企業との共同研究件数の推移 | 27 |
| グローバル観光戦略                                       | 28 |
| 国際観光テーマ地区の整備                                    | 29 |
| 訪日前後の対日イメージ比較                                   | 30 |

### 4 地域の特性を生かした東アジアとの交流の実態

|                              |    |
|------------------------------|----|
| 大学等間協約締結状況                   | 31 |
| 出身国別地域別受け入れ学生数               | 32 |
| 姉妹都市数                        | 33 |
| 我が国の地方圏の都市と東アジアとの航空路の特長      | 34 |
| 相手国別地域ブロック別1万人当たり出国者数(2000年) | 35 |

地域別人口1万人当たり在留外国人数・・・・・・・・・・36

**(参考資料)**

現行計画「21世紀の国土のグランドデザイン」における広域国際交流圏の記述

・・・・参考－1

我が国の各地方ブロックとOECD諸国の比較・・・・・・・・参考－2

国際コンテナ航路の寄港状況・・・・・・・・参考－3

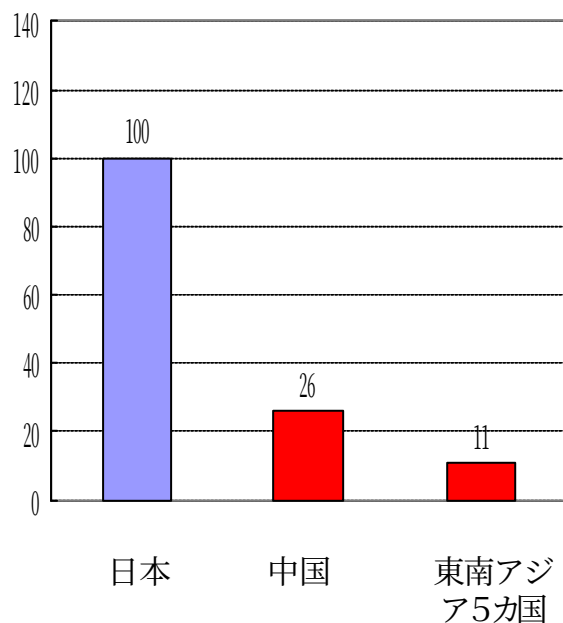
地域別コンテナ貨物相手国シェア・・・・・・・・参考－4

## 東アジアにおけるGDPの国際比較

GDPを展望すると、2020年にかけて中国、東南アジア諸国の伸びが顕著となり、我が国との相対関係は変化していく

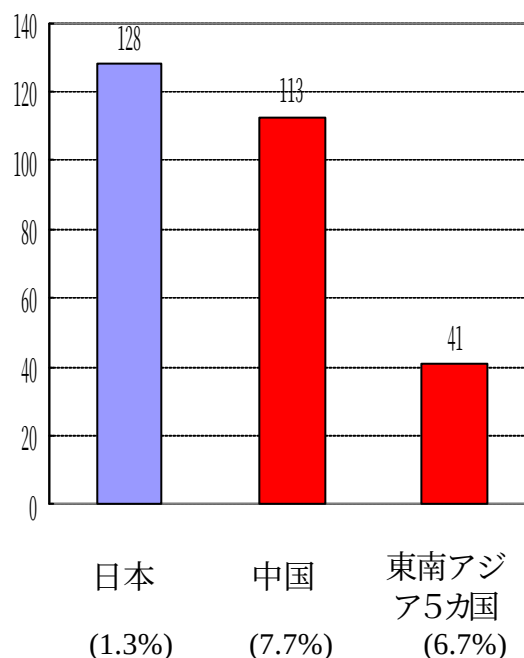
### 【東アジア地域の2020年のGDP（2000年の日本=100）】

【実績値（2000年）】

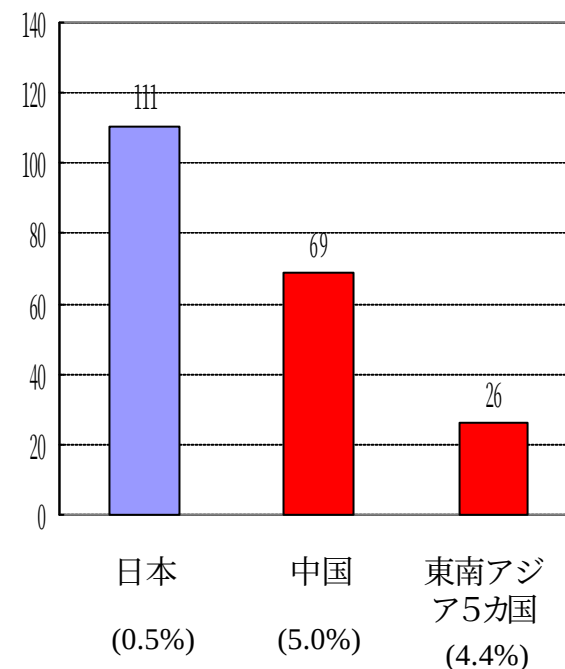


【推計値（2020年、括弧内は年平均成長率）】

<高成長シナリオ>



<低成長シナリオ>



注) 1. 東南アジア5カ国の構成はインドネシア、マレーシア、フィリピン、タイ、シンガポール。また、中国には香港が含まれる。

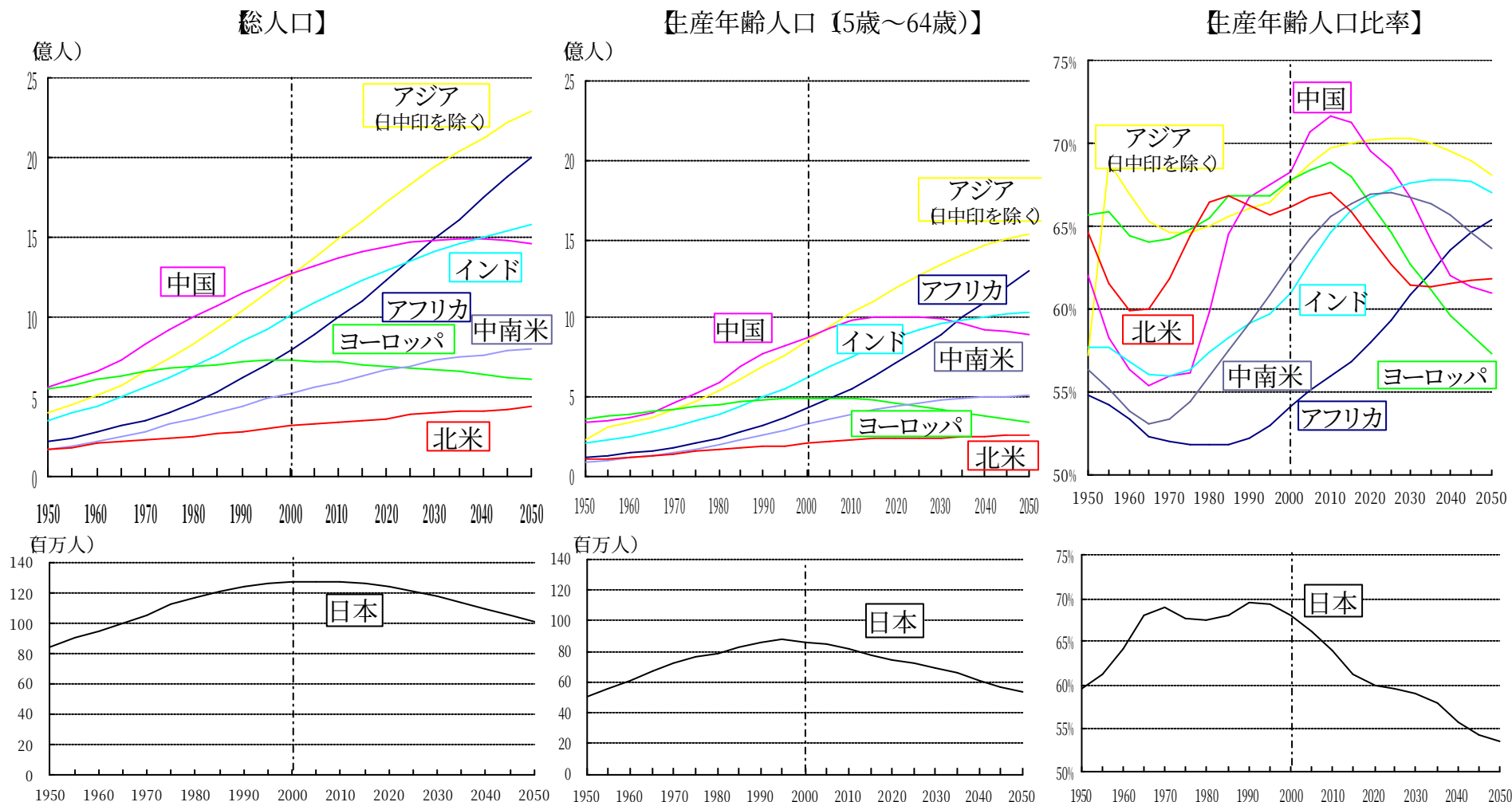
2. 日本は内閣府資料等をもとに国土交通省国土計画局推計、他の国・地域はOECD資料を用いて作成した。OECD資料における仮定は以下のとおり。

高成長シナリオ：貿易・投資の自由化と国内の規制改革が持続的にさらに進展すると仮定 低成長シナリオ：それらがあまり進展しないものと仮定

(出典) The World Bank “World Development Indicators 2002”、OECD編 『2020年の世界経済』(1999年1月)及び内閣府「改革と展望－2002年度改定」参考資料（2003年1月）等をもとに国土交通省国土計画局作成。

世界の各地域及び我が国の人口の展望

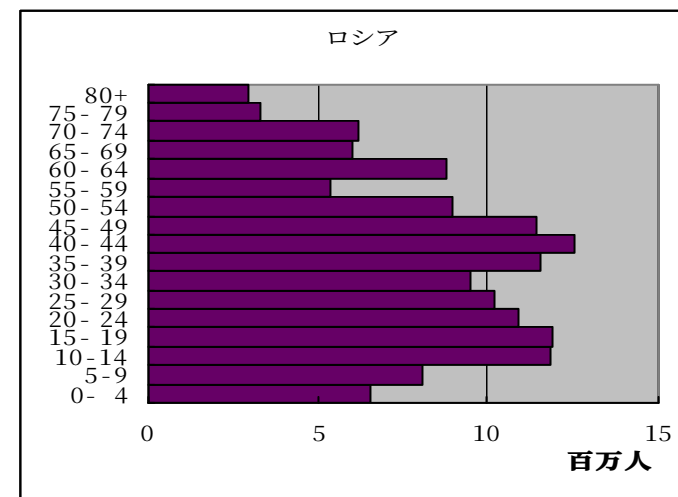
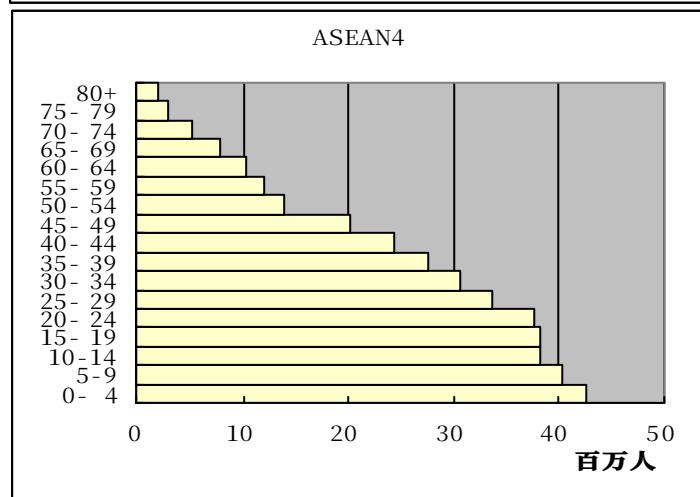
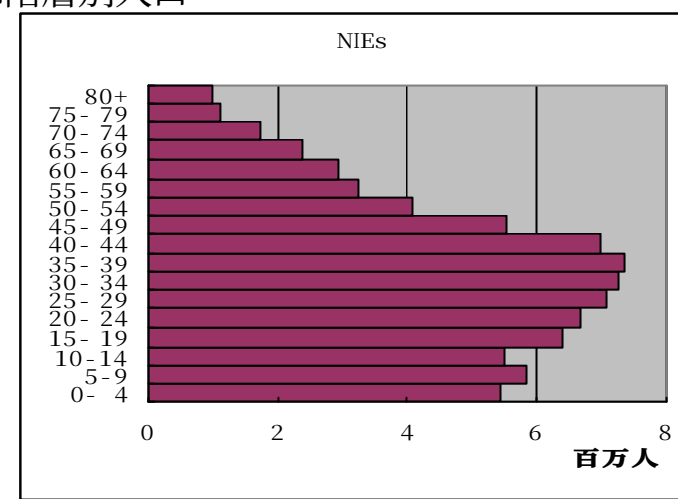
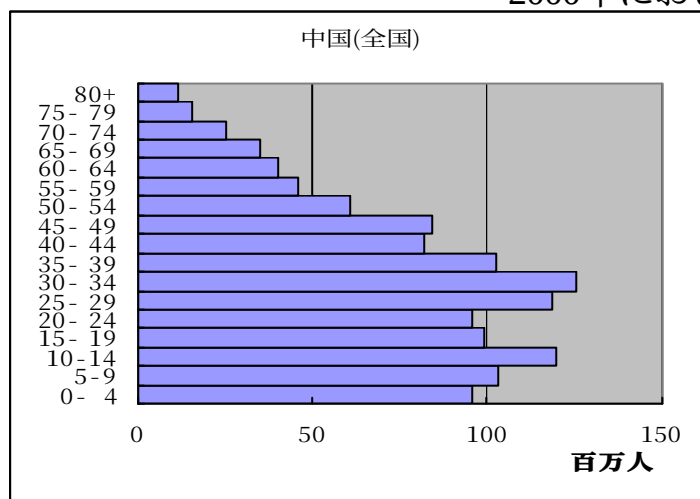
世界の各地域の人口を展望すると、2050年にかけて、アフリカ、インド、その他アジア地域の増加が顕著となり、世界の人口重心は南下する。この間、ヨーロッパ、中国、日本等については、人口減少に転じ、生産年齢人口比率はアフリカを除いて世界中で低下する。



東アジアにおける年齢階層別人口

ASEAN 4では、依然として若年層の人口が増加しているのに対して、中国、NIEs、ロシアでは、若年層の人口が急激に減少しており、将来的には生産年齢人口の減少、高齢人口の増加が見込まれる。

2000年における年齢階層別人口



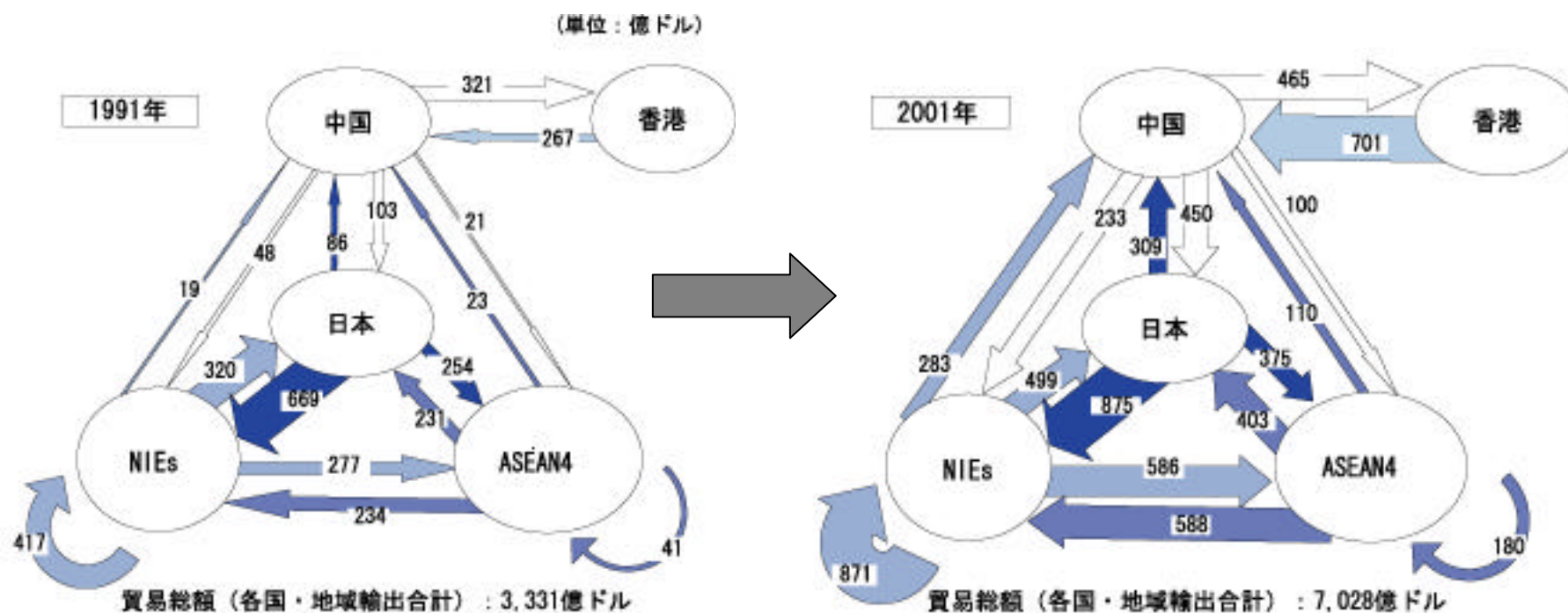
注 NIEsは韓国、台湾、香港、シンガポール

ASEAN4は、インドネシア、マレーシア、タイ、フィリピン

## 日本及び東アジア各国間の輸出動向

東アジアにおける貿易は、ここ10年間で急速に拡大している。特に、中国と他の地域との貿易の増加が著しい。

### 日本及び東アジア各国間の輸出動向



(備考) 1. 中国-NIEs間の貿易には香港を含まない。

2. 輸出額のデータが入手できない場合は相手国・地域の輸入データで代用した。

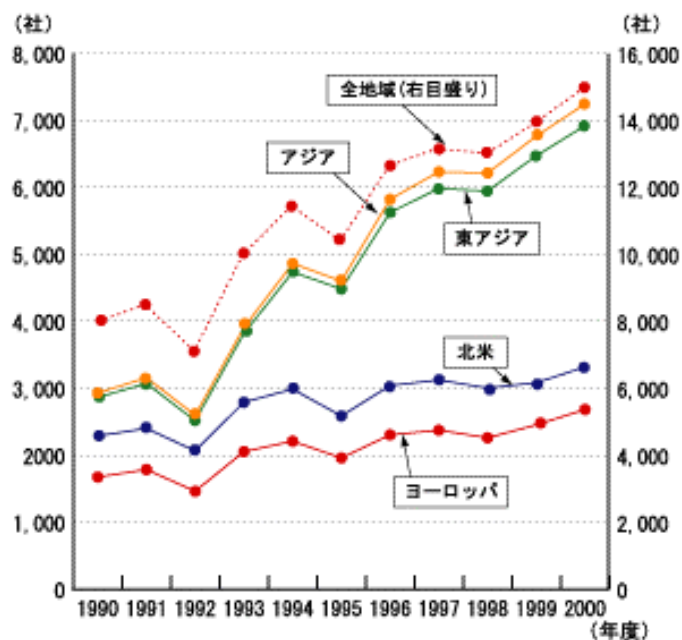
(資料) IMF「DOT」、 「Trade Statistics(Board of Foreign Trade, TAIWAN)」、アジア経済研究所「AIDXT」から作成。

出典:平成15年度通商白書より

## 東アジアにおける日本企業の進出状況

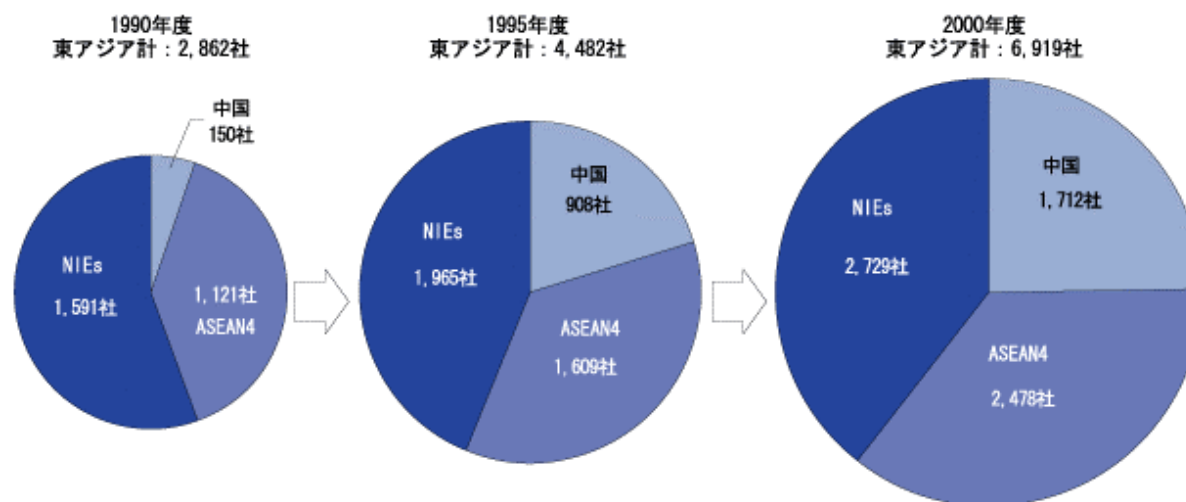
日本企業の海外進出数は、東アジアを中心に伸びており、また、その中でも特に中国への進出の割合が増加している。

### 日本企業の海外現地法人数の地域別推移



(資料) 経済産業省「我が国企業の海外事業活動」から作成。

### 日本企業の海外現地法人数及び構成割合の東アジア地域内における推移



(資料) 経済産業省「我が国企業の海外事業活動」から作成。

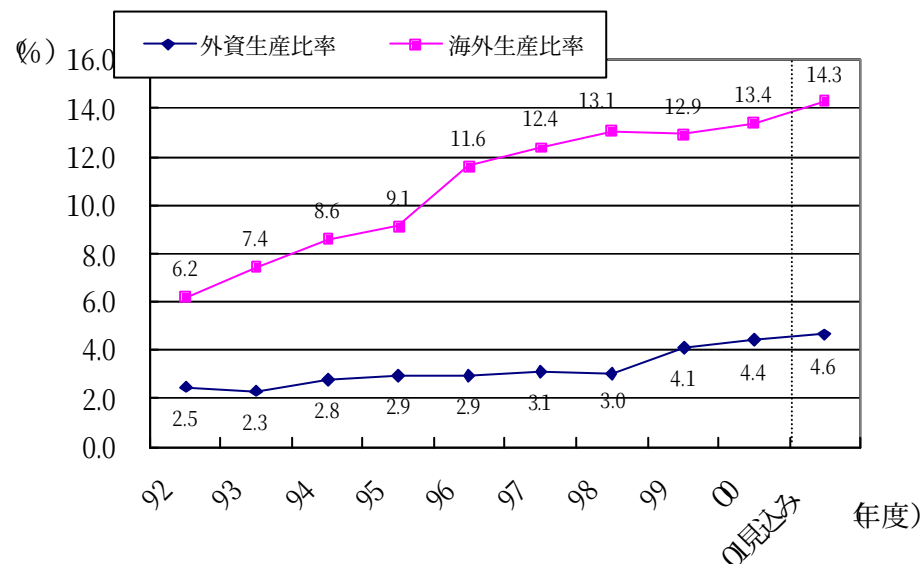
平成15年度通商白書より

## ポイント:東アジアと日本の相対関係の変化は

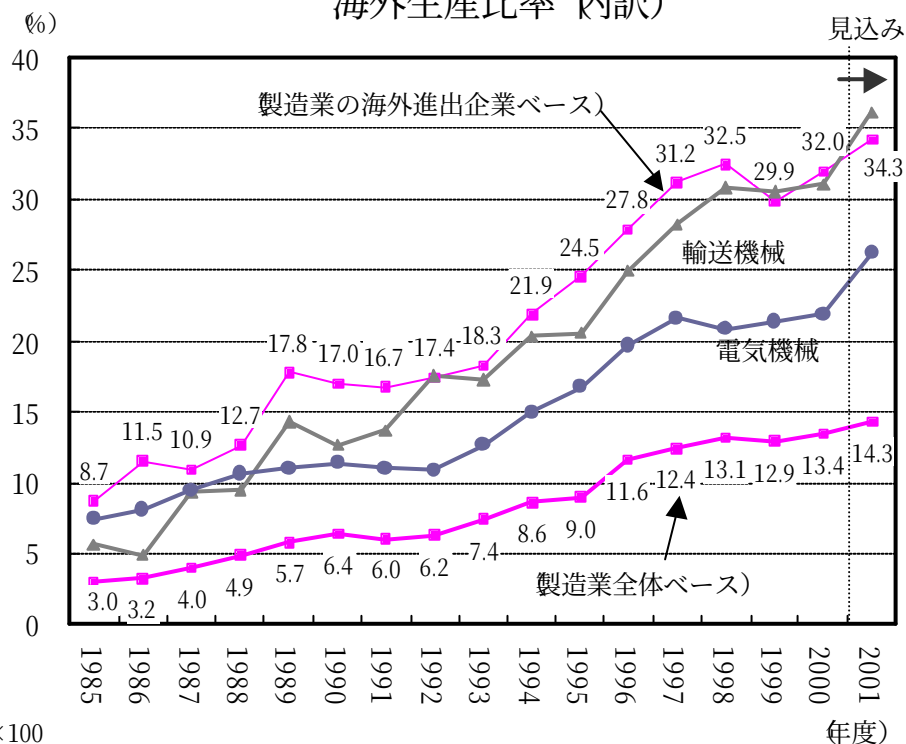
### 海外生産比率

海外現地法人数の上昇とともに海外生産比率が上昇しており、2000年度の製造業全体の海外生産比率は13.4%でこれまでの最高値。海外に進出した企業でみると、海外生産比率は32%。業種別では輸送機械が31.1%、電気機械が21.9%になっている。一方、国内の外資生産比率は増加しているが、海外生産比率の1/3程度にとどまっている。

### 海外生産比率・外資生産比率の推移 製造業)



### 海外生産比率 内訳)



注) 1. 海外生産比率、外資生産比率の2001年は見込み値。

2. 海外生産比率＝現地法人（製造業）売上高／国内法人（製造業）売上高×100  
外資生産比率＝外資系企業（製造業）の売上高／国内法人（製造業）の売上高×100

※現地法人：日本側出資率が10%以上の海外子会社と、日本側出資率が50%超の海外子会社が50%超の出資を行っている海外孫会社の総称。

本社企業 国内法人のうち、海外に現地法人を有する企業。

※外資系企業；「外国為替及び外国貿易法」に基づき経済産業省等に対内直接投資の届出又は事後報告のあった企業で、外国投資家が株式又は持ち分の3分の1超を所有している企業

3. （海外進出企業ベース）＝現地法人（製造業）売上高／本社企業（製造業）売上高×100

出典)経済産業省「海外企業事業活動基本 動向」調査、外資系企業動向調査」、財務省「国内法人 法人企業統計」、経済産業省「工場立地動向調査」、東洋経済「2003海外進出企業総覧」より国土交通省国土計画局作成。



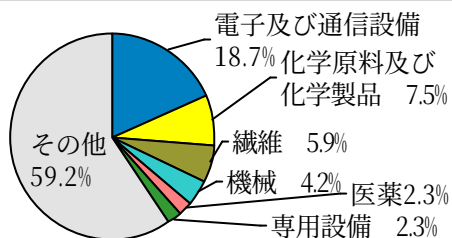
# ポイント:東アジアと日本の相対関係の変化は

## アジア諸国の商品別輸出入の状況

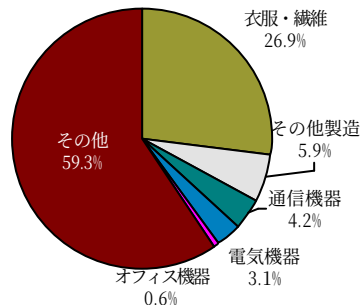
アジアでは対内直接投資の増加も受けて輸出・輸入の増加をもたらしている。  
中国では電子・通信設備の対内直接投資の増加とともに輸出・輸入で電気・通信機器の割合が増加。韓国では電機電子、輸送用機器の直接投資の増加とともに、電気機器、自動車の輸出が増加。

### 中国

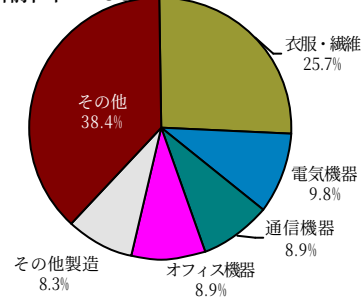
99年－02年  
対内直接投資累積  
内訳（製造業）



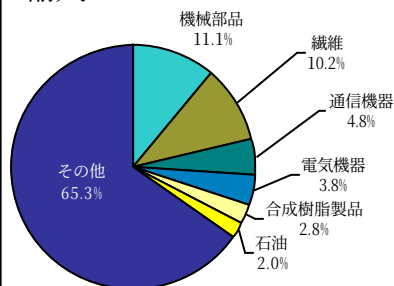
#### 輸出・1990



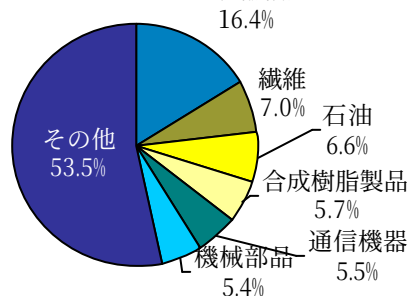
#### 輸出・2001



#### 輸入・1990

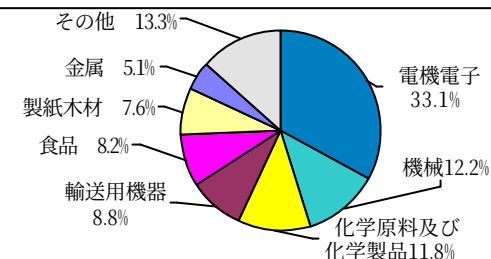


#### 輸入・2001

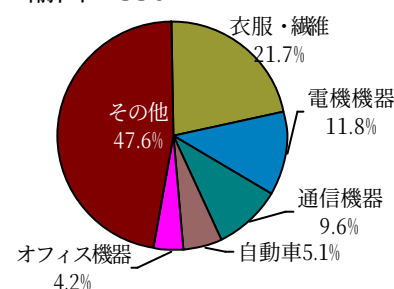


### 韓国

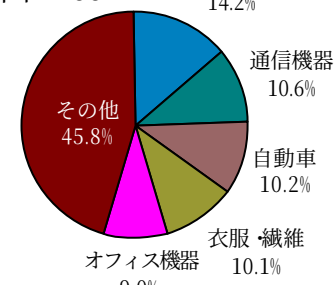
96年－02年  
対内直接投資累積  
内訳（製造業）



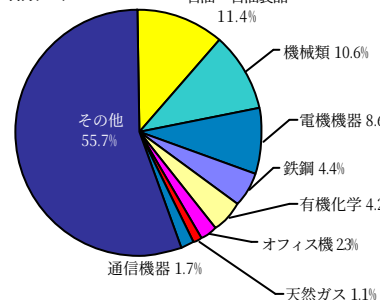
#### 輸出・1990



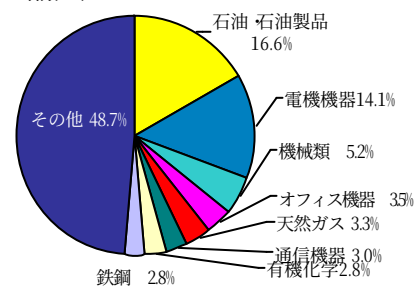
#### 輸出・2001



#### 輸入・1990



#### 輸入・2001



注) 中国の対内直接投資について、1998年は業種別内訳が非公開につき、99-02の累積とした。  
出典) 国連統計局、JETROデータより国土交通省国土計画局作成。

ポイント：東アジアと日本の相対関係の変化は

我が国とアジア諸国との技術開発の水準比較

現状でも、韓国や台湾にはTVやパソコンなどの技術水準では現時点ではほぼ同等であり、今後多くの分野で日本を上回る現地資本の企業が出現してくると見込まれている。

| 電子・電気機器の現地部品・金型の技術水準 現地資本の企業の技術水準) |           |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |        |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    |    |
|------------------------------------|-----------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|--------|----|----|----|-------|----|----|----|----|----|----|----|
|                                    | 主要製品・部品名称 | 中国 |    |    |    | 韓国 |    |    |    | 台湾 |    |    |    | シンガポール |    |    |    | マレーシア |    |    |    | タイ |    |    |    |
|                                    |           | 90 | 95 | 00 | 05 | 90 | 95 | 00 | 05 | 90 | 95 | 00 | 05 | 90     | 95 | 00 | 05 | 90    | 95 | 00 | 05 | 90 | 95 | 00 | 05 |
| カラーTV                              | CRT       |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |        |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    |    |
|                                    | IC／半導体    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |        |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    |    |
|                                    | 一般電気部品    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |        |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    |    |
|                                    | 射出成形部品    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |        |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    |    |
|                                    | プレス部品     |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |        |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    |    |
|                                    |           | 90 | 95 | 00 | 05 | 90 | 95 | 00 | 05 | 90 | 95 | 00 | 05 | 90     | 95 | 00 | 05 | 90    | 95 | 00 | 05 | 90 | 95 | 00 | 05 |
| パソコン                               | メモリ       |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |        |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    |    |
|                                    | ハードディスク   |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |        |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    |    |
|                                    | 光ディスク     |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |        |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    |    |
|                                    | マザーボード    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |        |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    |    |
|                                    | 筐体        |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |        |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    |    |
|                                    | 電源        |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |        |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    |    |
|                                    | CRTディスプレイ |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |        |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    |    |
|                                    | LCDディスプレイ |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |        |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    |    |

注 1： は日本より劣る、 は日本よりやや劣る、 は日本とほぼ同等、 は日本を上回る、をそれぞれ示す。

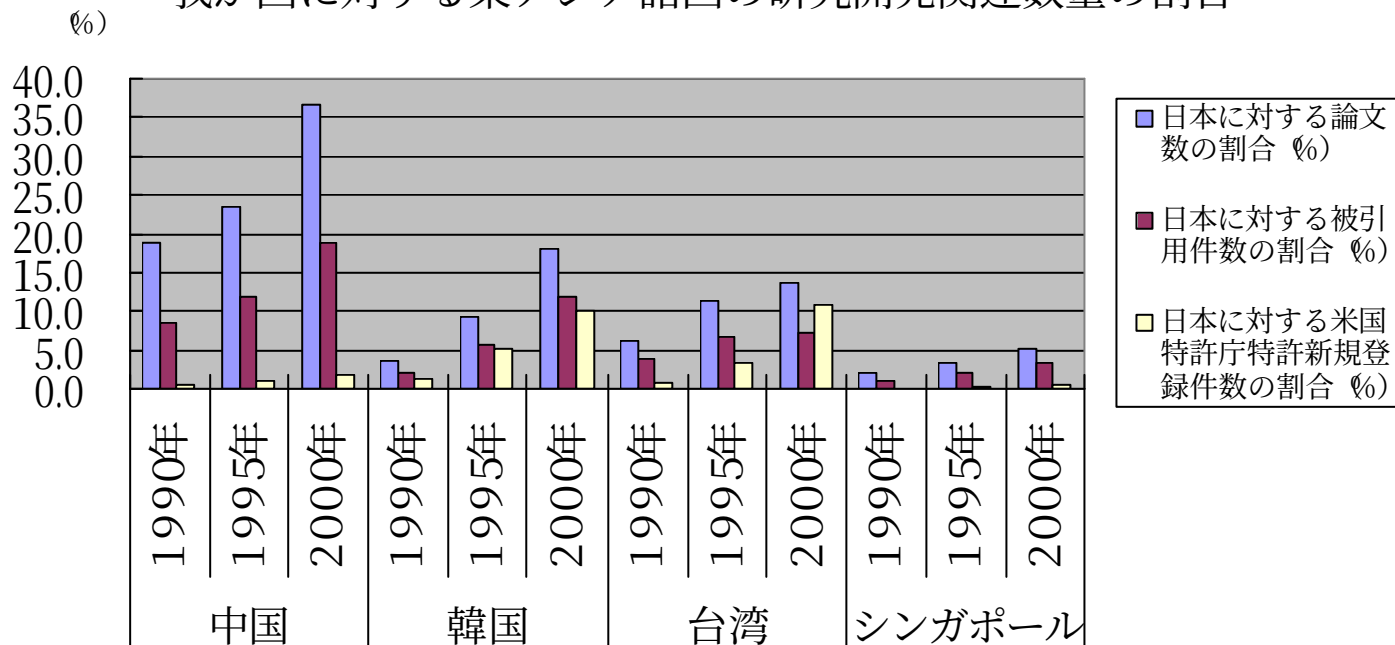
出典 経済産業省技術調査レポート（海外編）

我が国とアジア諸国との研究開発の水準比較

研究開発費では、我が国は東アジアにおいて群を抜いて多いが、GDP比では韓国が迫ってきており、また、研究者数では中国が迫ってきている。論文数、米国特許庁への登録件数等でも急速に伸びてきている。

|        | 研究開発費<br>(百万USドル) | 日本との<br>比較 (%) | 研究開発費<br>の対GDP<br>比率 (%) | 研究者数<br>(人) | 日本との<br>比較 (%) |
|--------|-------------------|----------------|--------------------------|-------------|----------------|
| 日本     | 131,970           | -              | 2.93                     | 658,909     | -              |
| 中国     | 8,199             | 6.2            | 0.83                     | 531,000     | 80.6           |
| 韓国     | 10,028            | 7.6            | 2.47                     | 100,210     | 15.2           |
| 香港     | 5,295             | 4.0            | 2.07                     | 83,209      | 12.6           |
| シンガポール | 1,572             | 1.2            | 1.87                     | 13,817      | 2.1            |
| マレーシア  | 288               | 0.2            | 0.40                     | 3,416       | 0.5            |
| タイ     | 218               | 0.2            | 0.12                     | 12,853      | 2.0            |

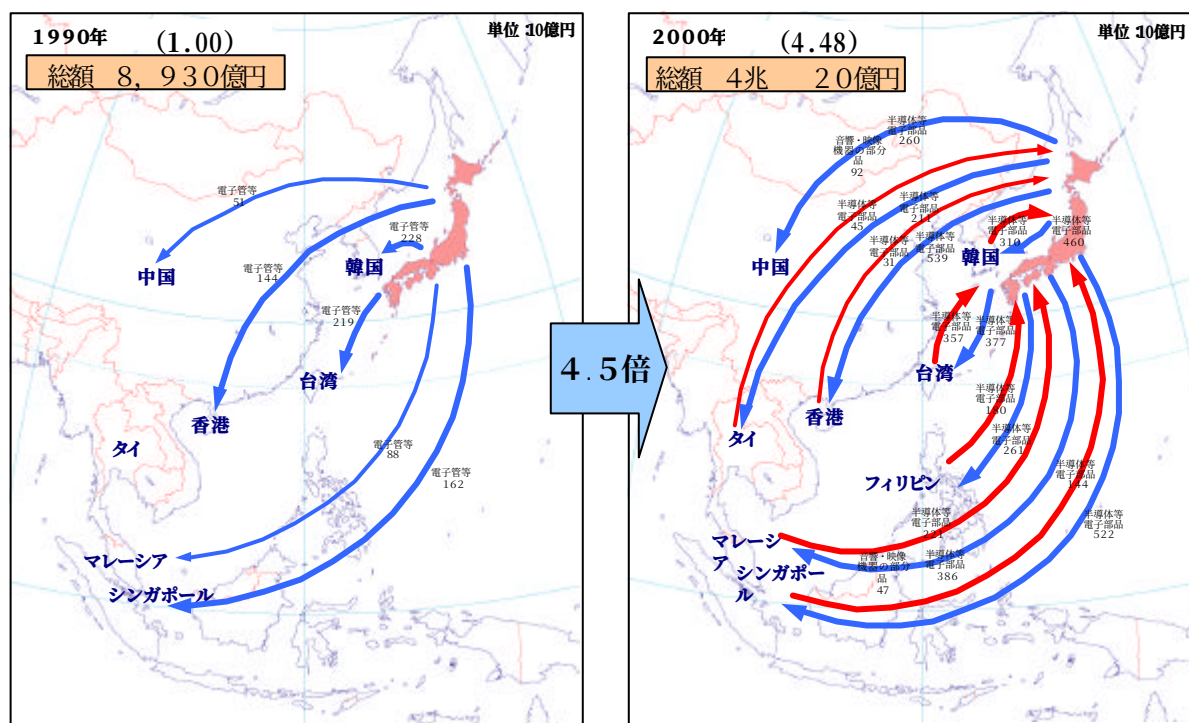
我が国に対する東アジア諸国の研究開発関連数量の割合



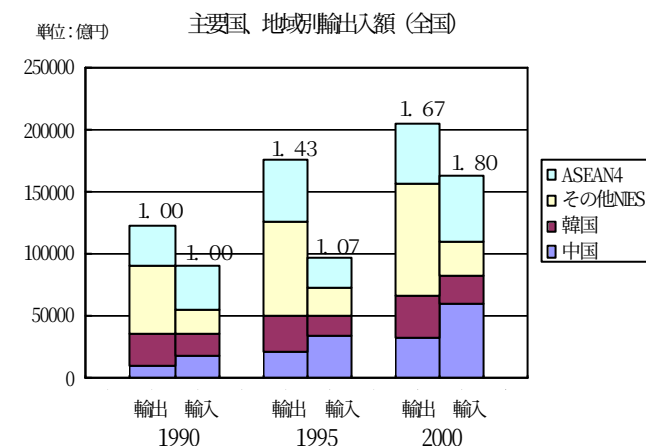
水平分業の進展

90年には、我が国からの輸出しかなかった電子部品が、2000年には東アジア諸国と双方向に貿易がされるようになり、相互に部品・半製品を提供する水平分業化が進んでいることがうかがえる。また、我が国の東アジアとの貿易量は大きく増加しており、特に中国との貿易量の増加が顕著である。

東アジア主要国との電子部品交易额（1990、2000年）



東アジアとの交易额（全国）

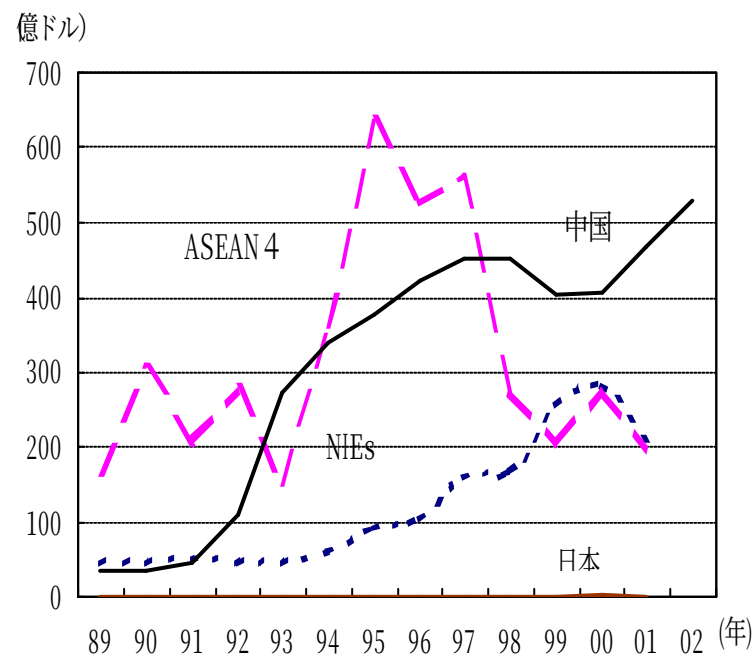


注) 図は各国との交易额上位10品目のうち電子部品類のみを抽出したもの（矢印は年間1000億円以上の流動）、総額はその集計値  
出典：「日本の統計2002」総務省より作成

アジア諸国の直接投資受入動向と一人当たりGDP

90年代末から中国の直接投資受入額は他のアジア諸国を大きく上回っている。また、GDPは各国とも比較的高い経済成長を続ける予想。特に中国は7～8%の成長を続け、一人あたりGDPも2020年には現在のトルコの水準を上回る等、消費市場としての魅力も増していく。

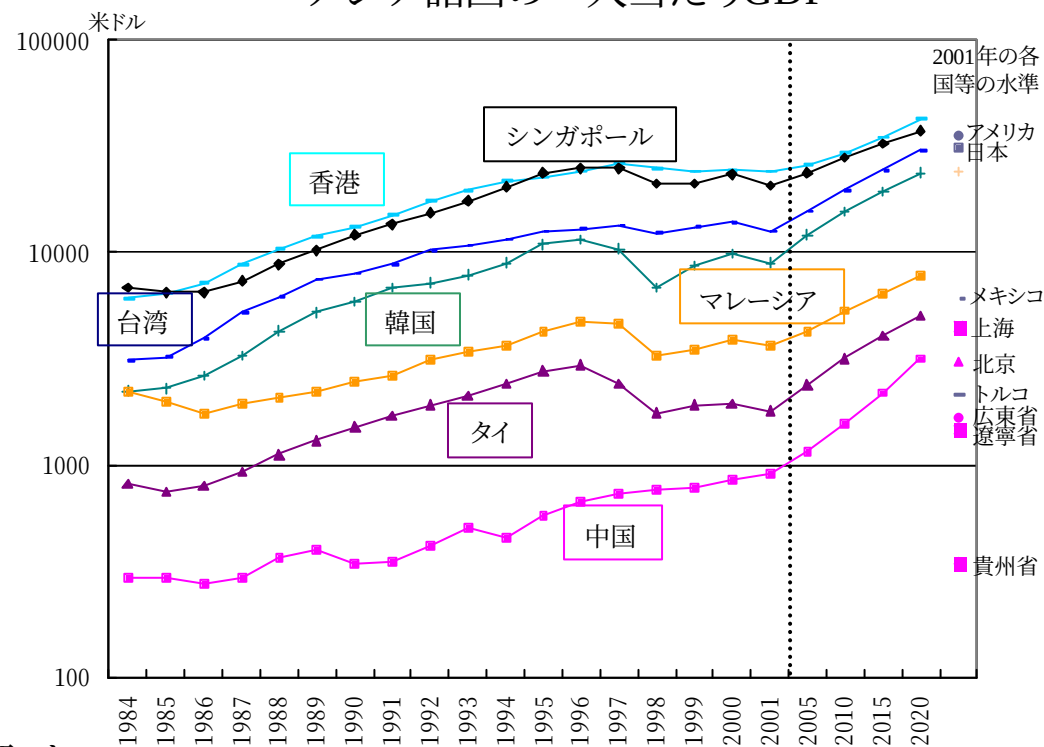
アジア諸国の直接投資受入動向



(注) 1. 中国は実行ベース、他の各国・地域は認可ベースの数字を用いた。  
2. 統計上、中国と香港マカオは、別々である。

(出典) 内閣府資料、ジェトロ「ジェトロ白書・投資編」各年版、中国対外経済貿易年鑑より、国土交通省国土計画局作成。

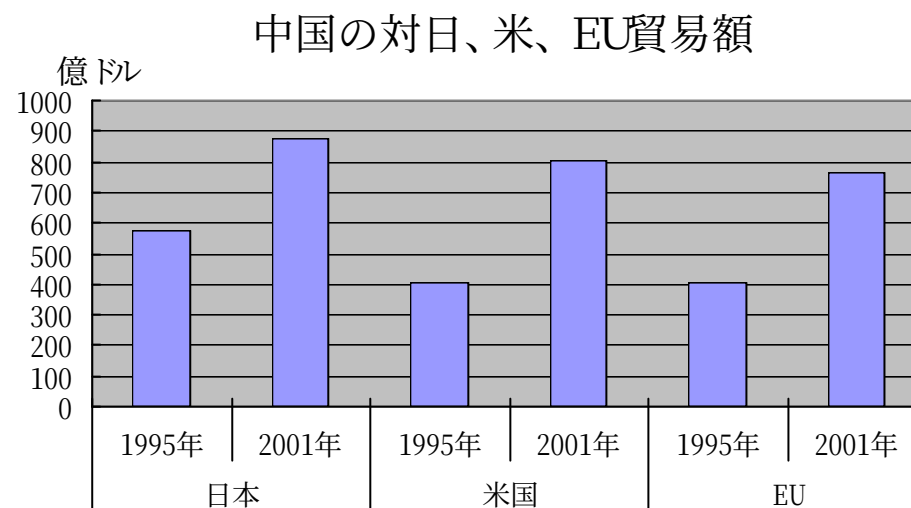
アジア諸国の一人当たりGDP



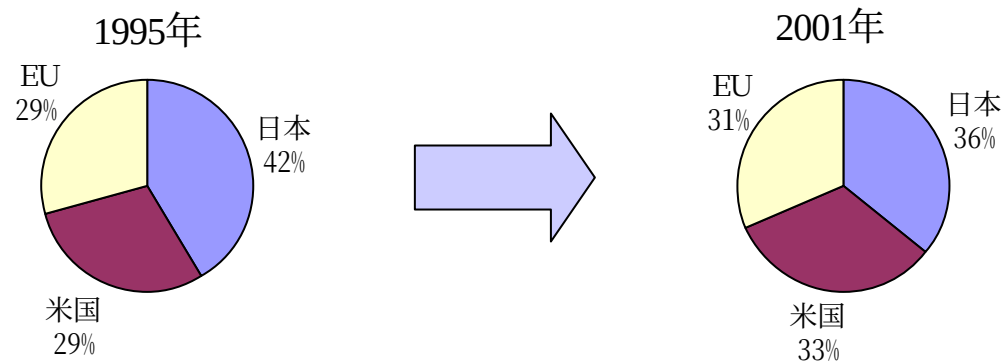
(出典)(社)日本経済研究センター「2020年のアジアの産業競争力」、内閣府：「アジア経済2000」、アジア開発銀行データ、台湾行政院主計処資料、タイNESDB資料、韓国統計庁資料、中国統計年鑑、中国統計概要より国土交通省国土計画局作成。

中国貿易における日、米、EUの動向

各国・地域とも中国との貿易額を大幅に伸ばしているが、シェアで見ると我が国は相対的に減少している。



中国の対日、米、EU貿易額に占める各国・地域シェアの推移

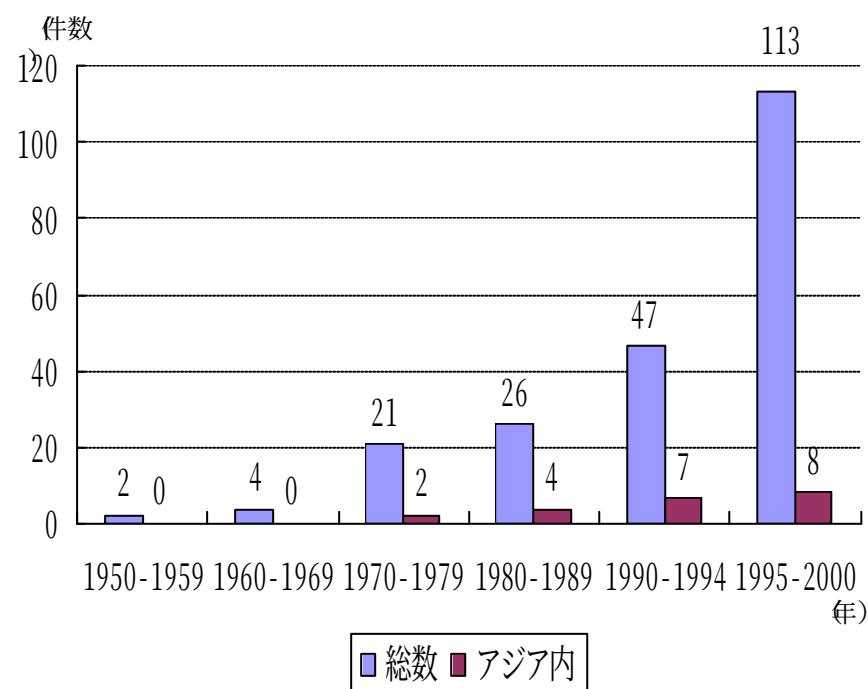


出典:国際貿易投資研究所  
『アジア貿易投資情報』NO.24  
より国土交通省国土計画局作成

## 世界とアジアの自由貿易協定（FTA）の動き

世界の自由貿易協定（FTA）の件数をみると、1990年代以降顕著な増加がみられ、制度面でもグローバル化が進展している。一方アジア内では、低い件数にとどまっているが、現在の取組み状況から今後増加する可能性がある。

【WTOに通報されたFTAの件数 2002年 6月現在、累積数】



(出典) 経済産業省「平成13年版通商白書」をもとに国土交通省国土計画局作成。

注) 1. GATT第24条及び授權条項に基づいて通報されたもの。

2. 「アジア」にはオセアニア諸国が含まれる。

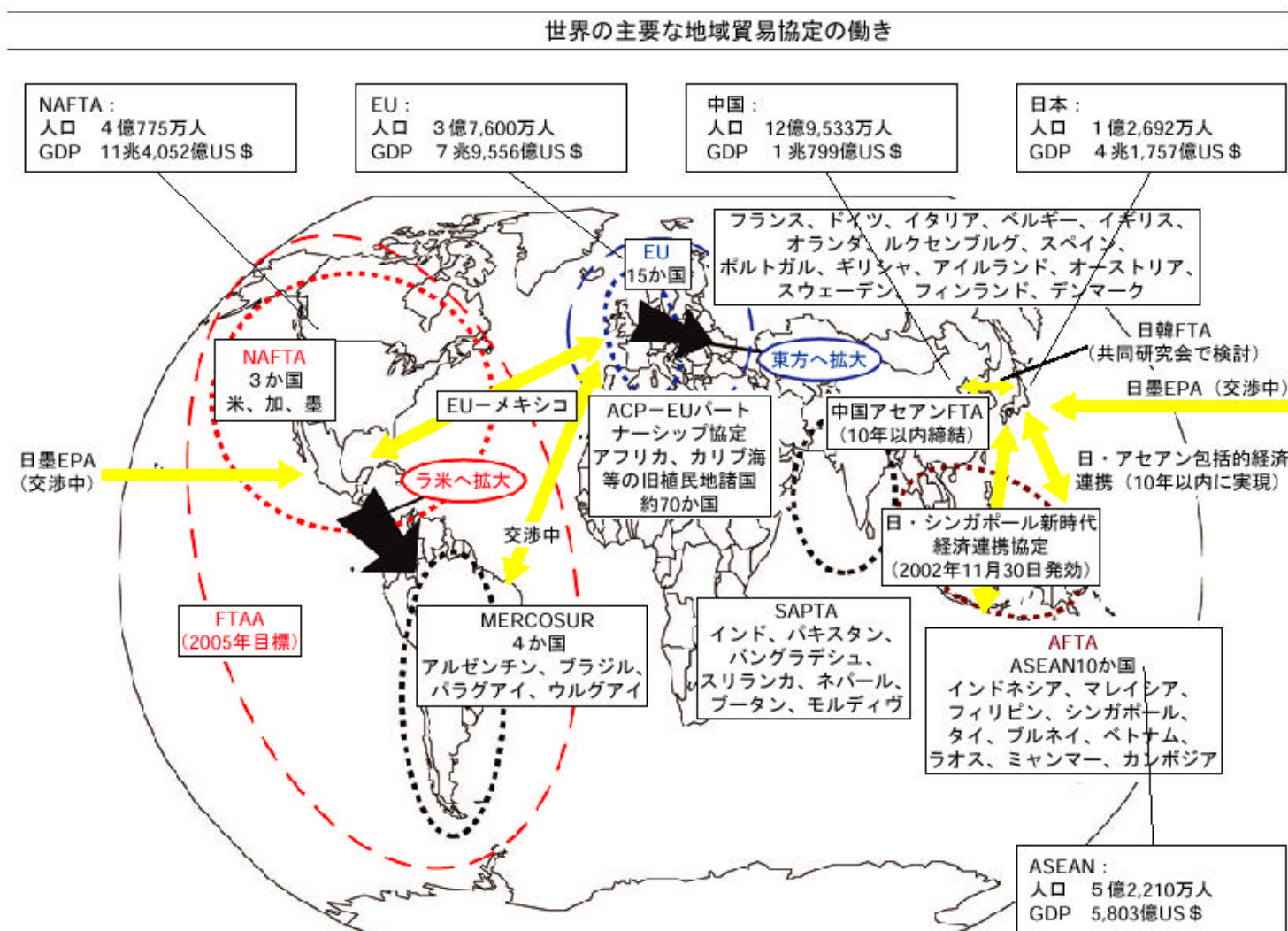
【我が国と東アジアのFTAへの取組み状況】

|           |                                                                                                                                  |
|-----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 日本－シンガポール | 2002年11月に「日・シンガポール新時代経済連携協定」が発効。                                                                                                 |
| 日本－ASEAN  | 2002年11月の日ASEAN首脳会議において、「FTAの要素を含め、経済連携を10年以内のできるだけ早期に実現する」などの内容が盛り込まれた「日ASEAN包括的経済連携構想に関する首脳達の共同宣言」に署名。                         |
| 日本－タイ     | 2002年 7月に両国間の経済連携について作業部会を立ち上げこれまで2回の会合を開催。                                                                                      |
| 日本－韓国     | 2002年 7月より日韓FTA共同研究会において検討を開始。2年以内の出来るだけ早い時期に共同報告書を作成。                                                                           |
| 日中韓       | 2002年11月の日中韓首脳会合において、中国から3カ国の研究機関が「共同研究」の本年のテーマとして「可能性としての日中韓FTAの効果」を取り上げること強く支持したい旨表明。                                          |
| ASEAN+ 3  | 東アジア自由貿易圏の可能性も含め、東アジア協力のあり方について「東アジア・スタディ・グループ」で検討を実施。検討結果を2002年11月のASEAN+ 3首脳会議に報告。今後、東アジアFTAの実現可能性の検討をASEAN+ 3経済大臣会合等において行う予定。 |
| 中国－ASEAN  | 2002年11月、10年以内のFTA創設を含む「中ASEAN包括的経済協力枠組み協定」に署名。本年 7月に発効予定。                                                                       |



## 世界の自由貿易協定 (FTA) の動き

世界の自由貿易協定 (FTA) は、NAFTA、EUなどからさらに周辺諸国へと広がっていくことが見込まれる。



資料 : 「世界の統計 2003 年版」、「日本アセアンセンターデータ 2000 年」、「アセアン事務局データ 2000 年」

出典 : 2003年版製造基盤白書



|                  |
|------------------|
| 査証（ビザ）の免除の状況について |
|------------------|

アジア地域における査証免除国はほとんどなく、最近のアジア各国における観光需要の増加もあり、訪日に際しての負担軽減が望まれる。

査証相互免除国一覧表（2003年4月1日現在）（計63か国）

| 免除国名                                                                                                                               | 滞在期間                                                                                        | 免除国名                                                                                                                                                                                                             | 滞在期間                                                                                                                    |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (アジア地域)<br>ブルネイ<br>シンガポール<br>パキスタン<br>バングラデシュ<br>マレーシア                                                                             | 14日以内<br>3か月以内<br>(取極一時停止中)<br>(査証取得勸奨中)                                                    | (欧州地域)<br>オランダ<br>ギリシャ<br>クロアチア<br>キプロス<br>サンマリノ<br>スウェーデン<br>スペイン<br>スロベニア<br>デンマーク<br>ノルウェー<br>フィンランド<br>フランス<br>ベルギー<br>ポルトガル<br>マケドニア<br>マルタ<br>ルクセンブルク<br>アイルランド<br>オーストリア<br>スイス<br>ドイツ<br>リヒテンシュタイン<br>英国 | 3か月以内<br>〃<br>〃<br>〃<br>〃<br>〃<br>〃<br>〃<br>〃<br>〃<br>〃<br>〃<br>〃<br>〃<br>〃<br>〃<br>6か月以内<br>〃<br>〃<br>〃<br>〃<br>〃<br>〃 |
| (北米地域)<br>アメリカ<br>カナダ                                                                                                              | 90日以内<br>3か月以内                                                                              | (大洋州地域)<br>オーストラリア<br>ニュージーランド                                                                                                                                                                                   | 90日以内 注)<br>〃                                                                                                           |
| (中南米地域)<br>バルバドス<br>アルゼンチン<br>ウルグアイ<br>エルサルバドル<br>グアテマラ<br>コスタリカ<br>コロンビア<br>スリナム<br>チリ<br>ドミニカ共和国<br>パナマ<br>ホンジュラス<br>メキシコ<br>ペルー | 90日以内<br>3か月以内<br>〃<br>〃<br>〃<br>〃<br>〃<br>〃<br>〃<br>〃<br>〃<br>〃<br>〃<br>6か月以内<br>(査証取得勸奨中) | (中近東地域)<br>イスラエル<br>トルコ<br>イラン                                                                                                                                                                                   | 3か月以内<br>〃<br>(取極一時停止中)                                                                                                 |
| (欧州地域)<br>アンドラ<br>エストニア<br>チェコ<br>ハンガリー<br>ポーランド<br>モナコ<br>ラトヴィア<br>リトアニア<br>スロバキア<br>アイスランド<br>イタリア                               | 90日以内<br>〃<br>〃<br>〃<br>〃<br>〃<br>〃<br>〃<br>〃<br>3か月以内<br>〃                                 | (アフリカ地域)<br>チュニジア<br>モーリシャス<br>レソト                                                                                                                                                                               | 3か月以内<br>〃<br>〃                                                                                                         |

(注) オーストラリアについては相互査証免除措置ではなく、我が国の一方的措置です。

外務省資料より国土交通省国土計画局作成

## 我が国ポップカルチャーの東アジアへの浸透

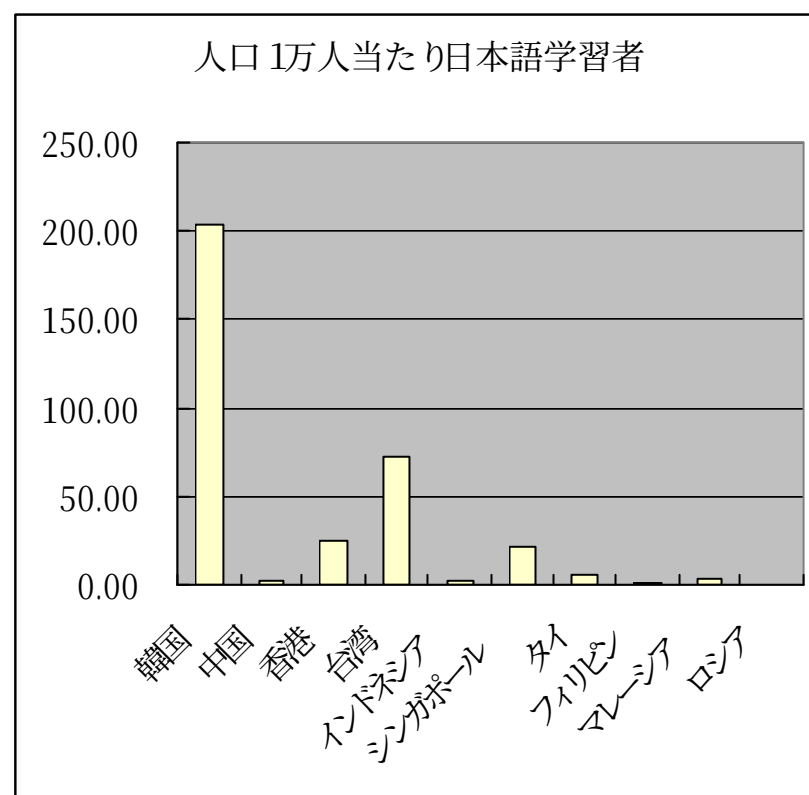
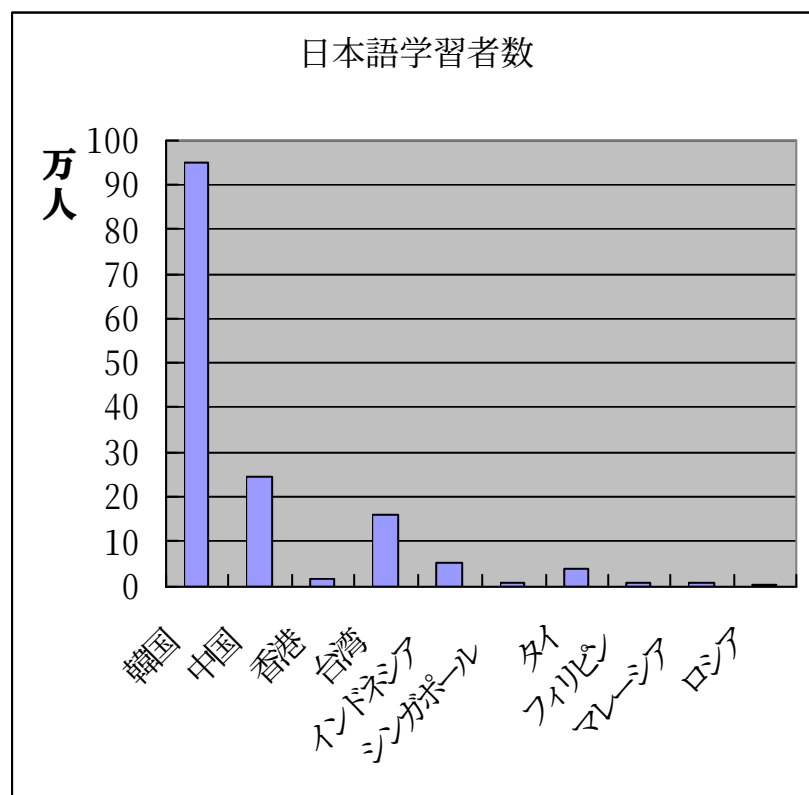
日本のドラマ、音楽が香港や台北で高い人気があるが、台北においては韓国のドラマが日本のドラマ以上に人気がある。また、日本のキャラクターについても好意的に受け止められている。

| 【ポップカルチャーと製品のイメージ】                           |            |      |      |                                             |        |      |      |
|----------------------------------------------|------------|------|------|---------------------------------------------|--------|------|------|
| 2001年11月                                     |            |      |      | 2003年1月                                     |        |      |      |
|                                              |            | 香港   | 台北   |                                             |        | 香港   | 台北   |
| 好きなテレビ番組                                     | 日本のドラマ     | 16.9 | 22.5 | よく見るテレビドラマ                                  | 日本のドラマ | 22.5 | 18.2 |
|                                              | 欧米のドラマ     | 5    | 8.5  |                                             | 韓国のドラマ | 7.5  | 23.2 |
| よく読むファッション誌                                  | 日本のファッション誌 | 26.5 | 13.5 |                                             | 欧米のドラマ | 7.5  | 3.5  |
|                                              | 欧米のファッション誌 | 7.5  | 9.5  | 好きな音楽・ポップス                                  | 日本     | 45.5 | 28.3 |
| 好きな音楽                                        | J-POP      | 37.3 | 34   |                                             | 韓国     | 17.5 | 6.6  |
|                                              | 欧米のポップス    | 24.4 | 20.5 |                                             | 欧米     | 40.5 | 30.8 |
| 調査対象：15～24歳の男女<br>(2001年11月博報堂アジア生活意識調査結果より) |            |      |      | よく見る映画                                      | 日本     | 3.5  | 6.6  |
|                                              |            |      |      |                                             | 韓国     | 1.5  | 2.5  |
|                                              |            |      |      |                                             | 欧米     | 16.5 | 46.5 |
|                                              |            |      |      | (調査対象：15～24歳の男女<br>2003年1月博報堂アジア生活意識調査結果より) |        |      |      |

| 中国における好きなキャラクター人気ランキング                                                  |           |     |
|-------------------------------------------------------------------------|-----------|-----|
| 順位                                                                      | キャラクター名   | 人数  |
| 1                                                                       | クレヨンしんちゃん | 74人 |
| 2                                                                       | 孫悟空       | 73人 |
| 3                                                                       | ドラえもん     | 68人 |
| 4                                                                       | 名探偵コナン    | 57人 |
| 5                                                                       | ちびまる子ちゃん  | 53人 |
| 6                                                                       | スヌーピー     | 49人 |
| 7                                                                       | ドナルドダック   | 43人 |
| 8                                                                       | ミッキーマウス   | 39人 |
| 9                                                                       | ガーフィールド   | 39人 |
| 10                                                                      | 桜木花道      | 37人 |
| 備考) 1. 網掛けは日本初のキャラクター。<br>2. 調査対象は中国3都市 北京・上海・広州)<br>在住の20代以上の男女1,000人。 |           |     |
| 出所) 「コンテンツ産業国際戦略研究会」経済産業省<br>文化情報関連産業課)第1回(2003年4月)資料                   |           |     |
| 原出所) 2001年12月サイバーブレインズ社調査結果。                                            |           |     |

## 日本語の東アジアへの浸透

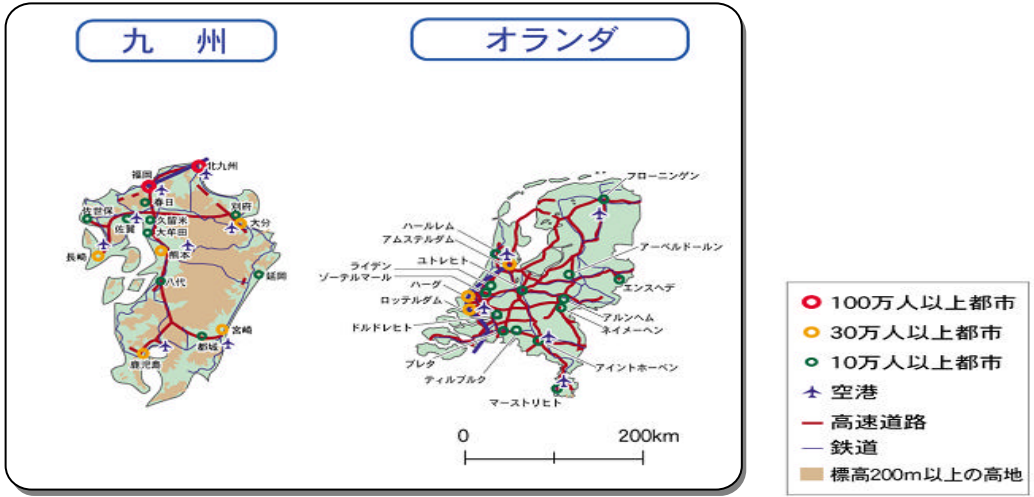
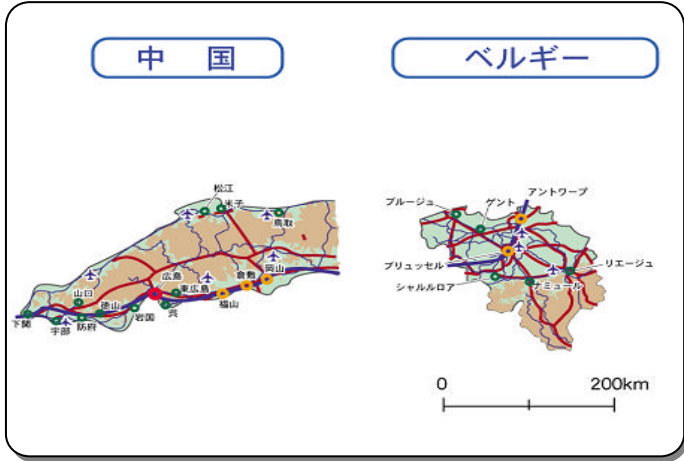
日本語学習者は、韓国に次いで中国が多いが、学習者の割合では台湾、シンガポールなどNIES諸国が多い。



出典:文部科学省資料

## わが国の地方ブロックとヨーロッパ中規模国家の比較

わが国の各地方ブロックは、ヨーロッパ中規模国家に匹敵する面積、経済規模を有している。



| 地方・国   | 面積<br>(km <sup>2</sup> )<br>2000年 | GDP<br>(100万米ドル)<br>1999年 | 人口<br>(1000人)<br>2000年 | 地形の特徴     |
|--------|-----------------------------------|---------------------------|------------------------|-----------|
| 北海道    | 83,453                            | 172,741                   | 5,683                  | 平地と丘陵地が多い |
| オーストリア | 82,730                            | 209,978                   | 8,110                  | 大半は山岳地帯   |
| 中国     | 31,914                            | 245,981                   | 7,732                  | 山地が縦断     |
| ベルギー   | 32,820                            | 248,870                   | 10,252                 | 平坦        |
| 九州     | 42,165                            | 377,706                   | 13,446                 | 中央部に山地    |
| オランダ   | 33,880                            | 393,690                   | 15,919                 | 平坦        |

(出典)

The World Bank "World Development Indicators 2002"、  
総務省「国勢調査」、内閣府「国民経済計算」及び「県  
民経済計算」をもとに国土交通省国土計画局作成。

ヨーロッパ中規模国家における国際競争力を有する産品

ヨーロッパ中規模国家においては、農産物などの他に、医薬品、時計、ジュエリー、カメラ、自動車など特殊な技術分野において、国際的な競争力を有する国がある。

| ヨーロッパ中規模諸国の主な輸出品目                           |                   |                  |              |                 |              |
|---------------------------------------------|-------------------|------------------|--------------|-----------------|--------------|
| (1998年)                                     |                   |                  |              |                 |              |
| 国名                                          | 1998輸出<br>100万米ドル | 世界総輸出に占<br>める割合a | 特化品目         | 世界輸出に占<br>める割合b | 国際競争力<br>b/a |
| オランダ                                        | 201,363           | 3.7%             | 肉類           | 10.3%           | 2.74         |
|                                             |                   |                  | 野菜・いも・豆類     | 14.4%           | 3.85         |
|                                             |                   |                  | 天然・製造ガス      | 6.2%            | 1.65         |
|                                             |                   |                  | ポリエチレン       | 6.1%            | 1.63         |
|                                             |                   |                  | 自動データ処理機械    | 8.8%            | 2.35         |
|                                             |                   |                  | 石油製品         | 7.3%            | 1.95         |
|                                             |                   |                  | カメラ          | 7.5%            | 2.00         |
| ベルギー                                        | 177,662           | 3.3%             | 肉類           | 5.6%            | 1.70         |
|                                             |                   |                  | 野菜・いも・豆類     | 5.8%            | 1.75         |
|                                             |                   |                  | 果実・ナッツ       | 6.1%            | 1.84         |
|                                             |                   |                  | 医薬品          | 5.8%            | 1.75         |
|                                             |                   |                  | ポリエチレン       | 10.0%           | 3.02         |
|                                             |                   |                  | 真珠・貴石・半貴石    | 25.4%           | 7.68         |
|                                             |                   |                  | 乗用自動車        | 6.2%            | 1.87         |
| スウェーデン                                      | 85,003            | 1.6%             | 鉄鉱石          | 5.4%            | 3.41         |
|                                             |                   |                  | 医薬品          | 3.8%            | 2.40         |
|                                             |                   |                  | 紙、板紙         | 8.7%            | 5.50         |
|                                             |                   |                  | 製材、まくら木      | 9.2%            | 5.81         |
|                                             |                   |                  | パルプ、くず紙      | 7.9%            | 4.99         |
|                                             |                   |                  | 自動車部品、付属品    | 3.3%            | 2.08         |
|                                             |                   |                  |              |                 |              |
| フィンランド                                      | 42,963            | 0.8%             | 紙、板紙         | 12.0%           | 15.00        |
|                                             |                   |                  | 製材、まくら木      | 6.5%            | 8.12         |
|                                             |                   |                  | パルプ、くず紙      | 4.2%            | 5.25         |
| スイス                                         | 75,439            | 1.4%             | 医薬品          | 10.4%           | 7.40         |
|                                             |                   |                  | 真珠・貴石・半貴石    | 2.9%            | 2.06         |
|                                             |                   |                  | 計測・分析・制御用機器等 | 3.2%            | 2.28         |
|                                             |                   |                  | 時計           | 29.5%           | 21.00        |
| オーストリア                                      | 62,746            | 1.2%             | 紙、板紙         | 3.5%            | 3.00         |
|                                             |                   |                  | 鉄鋼プレート       | 3.5%            | 3.00         |
|                                             |                   |                  | 内燃機関、部品      | 3.9%            | 3.34         |
|                                             |                   |                  | 製材、まくら木      | 4.2%            | 3.59         |
| 主要品目別で上位10カ国に入るものから抽出<br>(出典)世界の統計 (総務省統計局) |                   |                  |              |                 |              |

我が国の主要輸出品目製造業のブロック別企業分布

我が国の主要な輸出品目を製造している企業は、自動車—中部、集積回路—九州、半導体素子—東北、造船—中四国というように、品目により地方ブロックで集中する傾向がみられる。

我が国の主要輸出品目（1999年） （額；億円）

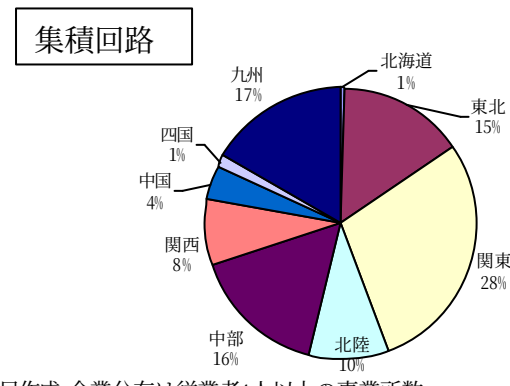
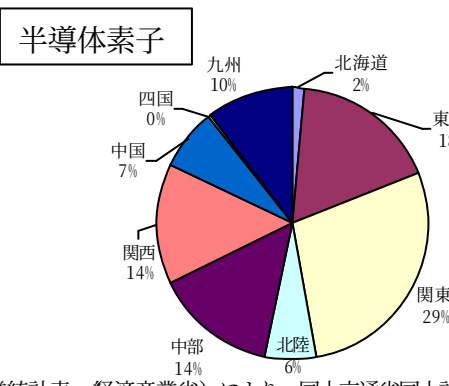
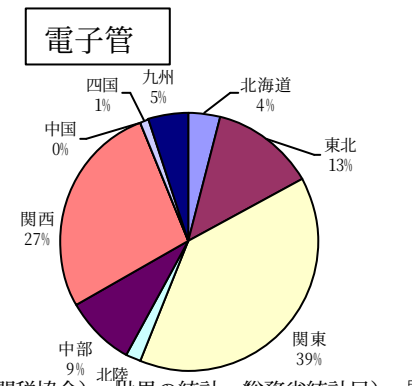
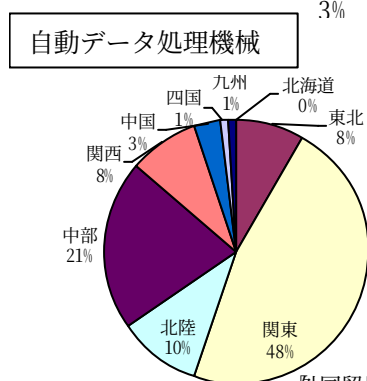
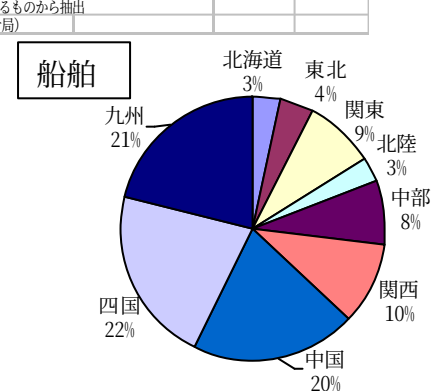
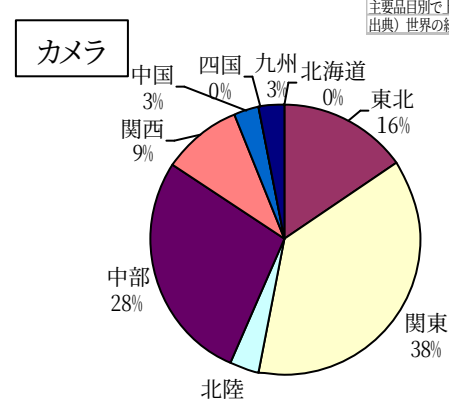
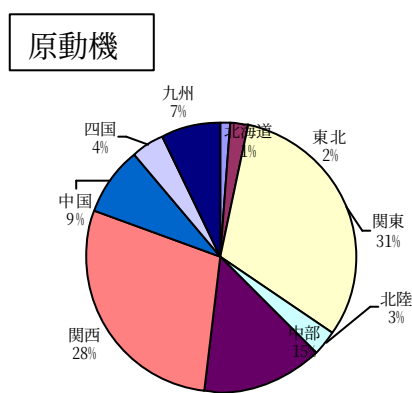
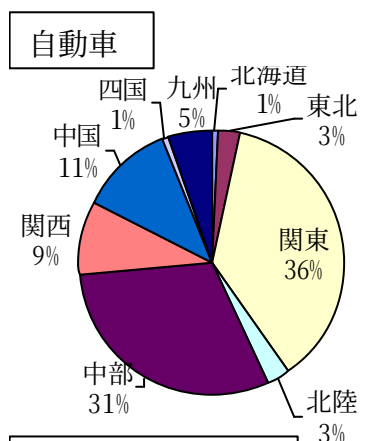
| (額; 億円) |          |        |        |         |
|---------|----------|--------|--------|---------|
|         | 半導体等電子部品 |        | 自動車    |         |
| 受像機     |          | # I C  |        | # 乗 用 車 |
| 2,840   | 37,260   | 23,074 | 70,948 | 62,261  |
| 0.6%    | 7.8%     | 4.9%   | 14.9%  | 13.1%   |

我が国の競争力のある輸出品目（1998年）

| 国名 | 1998輸出<br>100万米ドル | 世界総輸出に占<br>める割合 | 特化品目         | 世界輸出に占<br>める割合 | 特化係数<br>b/a |
|----|-------------------|-----------------|--------------|----------------|-------------|
| 日本 | 388.177           | 7.2%            | 鉄鋼・プレート      | 13.4%          | 1.85        |
|    |                   |                 | 内燃機関・部品      | 15.0%          | 2.08        |
|    |                   |                 | 自動データ処理機械    | 9.9%           | 1.37        |
|    |                   |                 | テレビ          | 10.3%          | 1.42        |
|    |                   |                 | 真空管・トランジスタ等  | 14.7%          | 2.03        |
|    |                   |                 | 乗用自動車        | 18.0%          | 2.49        |
|    |                   |                 | 自動車部品、付属品    | 9.6%           | 1.33        |
|    |                   |                 | 船舶等          | 24.6%          | 3.40        |
|    |                   |                 | 計測・分析・制御用機器等 | 10.3%          | 1.42        |
|    |                   |                 | カメラ          | 27.1%          | 3.75        |

主要品目別で上位10カ国に入るものから抽出  
(出典) 世界の統計 (総務省統計局)

## 我が国の主要輸出品目製造業のブロック別企業分布

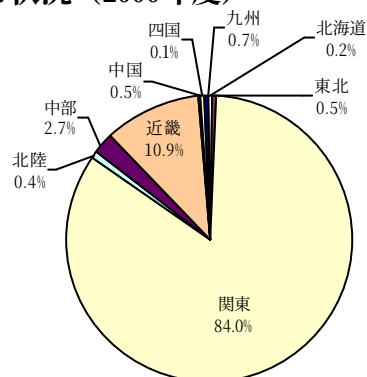


外国貿易概況」(日本関税協会)、「世界の統計」(総務省統計局)、「工業統計表」(経済産業省)により、国土交通省国土計画局作成。企業分布は従業者4人以上の事業所数。

## 外資系企業立地の動向

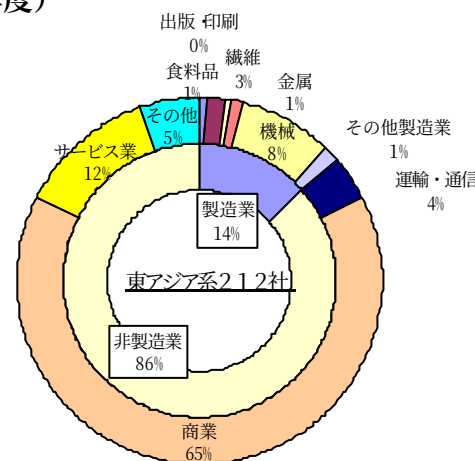
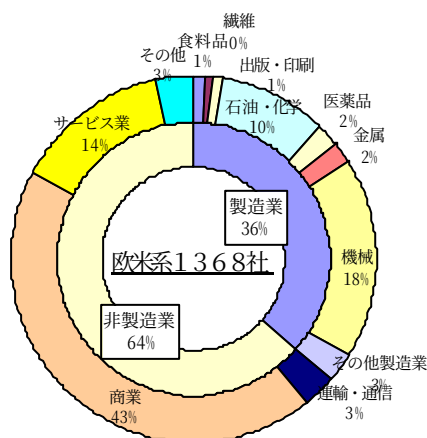
我が国の外資系企業の立地は、大都市圏、特に関東圏が圧倒的に多い。業態別では非製造業分野の企業が多く、特に東アジアからの企業についてその傾向が顕著である。

外資系企業の分布状況（2000年度）



| 地域区分 |                                  |
|------|----------------------------------|
| 北海道  | 北海道                              |
| 東北   | 青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、新潟県      |
| 関東   | 茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県 |
| 北陸   | 富山県、石川県、福井県                      |
| 中部   | 長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県              |
| 近畿   | 滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県         |
| 中国   | 鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県              |
| 四国   | 徳島県、香川県、愛媛県、高知県                  |
| 九州   | 福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県 |

外資系企業の業種別分布（欧米企業、東アジア企業）（2000年度）



出典）外資系企業の動向（経済産業省経済産業政策局・貿易経済協力局）より国土交通省国土計画局作成

注）対象企業は、「外国為替及び外国貿易法」に基づき経済産業省等に対内直接投資の届出又は事後報告のあった企業で、外国投資家が株式又は持分の3分の1超を所有している企業

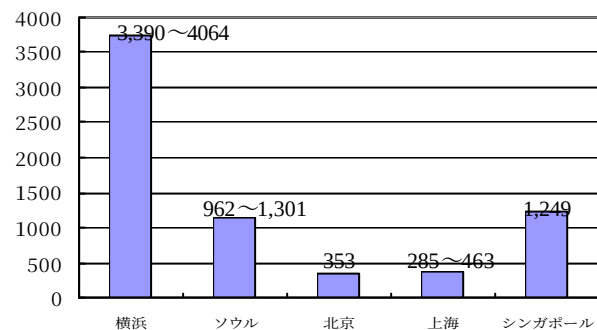


指標 :賃金、事務所賃料等、通信費、公共料金、税制

東アジア主要都市の投資関連コストの内外価格差)

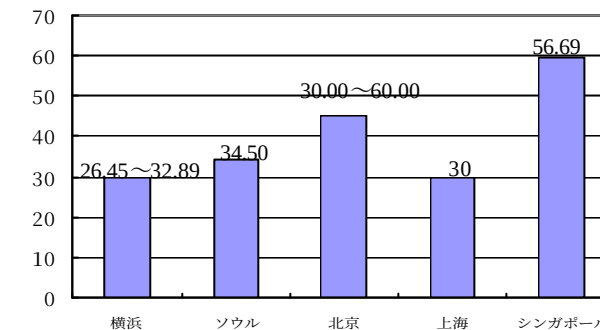
**日本の都市（横浜市）の投資関連コストは、東アジア主要都市と比較すると高いものが多い（特に、人件費、駐在員用住宅借上料、業務用電気料金など）。**

(米ドル) エンジニア（中堅技術者）月額賃金



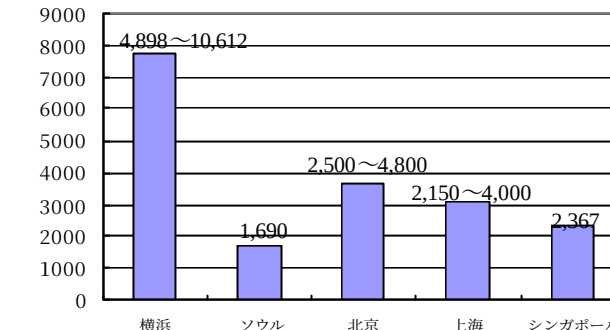
ソウル：日系製造業5社平均、諸手当を含む。  
北京：在中国日本商工会議所三資企業部会による2001年時点の給与調査。回答のあった27社平均。  
上海：日系企業5社平均。  
シンガポール：電子・電機メーカー平均。  
横浜：横浜人事委員会発行「給与に関する報告及び勧告 企業規模別・職種別学歴別給与月額等」の技術主任～技術課長代理。

(米ドル) 事務所賃料（月額）(㎡当たり)



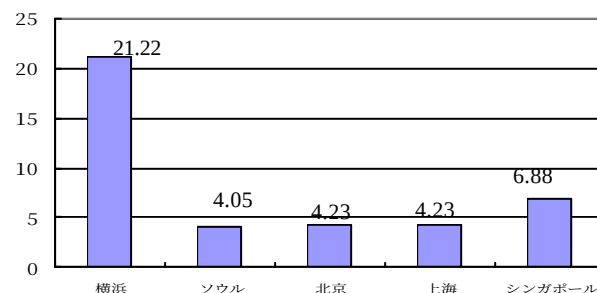
ソウル：ソウル市鍾路区永豊ビル。  
北京：管理費込み。  
上海：虹橋経済技術開発区。1.00 (日額) × 30  
シンガポール：リパブリック・プラザ。  
横浜：関内・横浜西口・新横浜の平均賃料。

(米ドル) 駐在員用住宅借上料（月額）



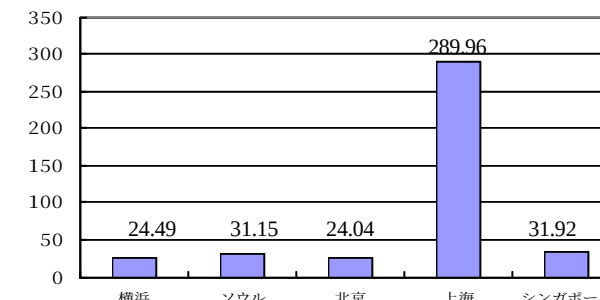
ソウル：新東亜APTレンタル 約102.45㎡。  
北京：2LDK～3LDK。  
上海：虹橋経済技術開発区。  
シンガポール：セントラル・グリーン、3ベッドルーム、築約6年。  
横浜：山手町地区・本牧和田地区。

(米ドル) 電話基本料金（月額）



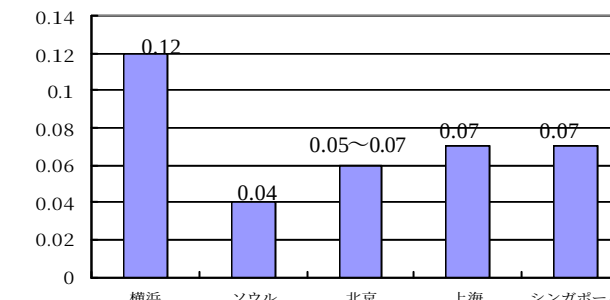
(注) ソウル：光化門電話局 北京：北京市電話局  
上海：中国電信 シンガポール：シングテル社  
横浜：NTT東日本

(米ドル) インターネット接続料金（ブロードバンド）



(注) ソウル：韓国通信「MEGAPASS」(ADSL, 654kbps)  
北京：北京市電話局 (ADSL, 512kbps)  
上海：上海環球信息网络有限公司 (ADSL)  
シンガポール：シングネット社 (月間500MBまでの料金)  
横浜：接続業者数社の平均料金

(米ドル) 業務用電気料金（kWh当たり）



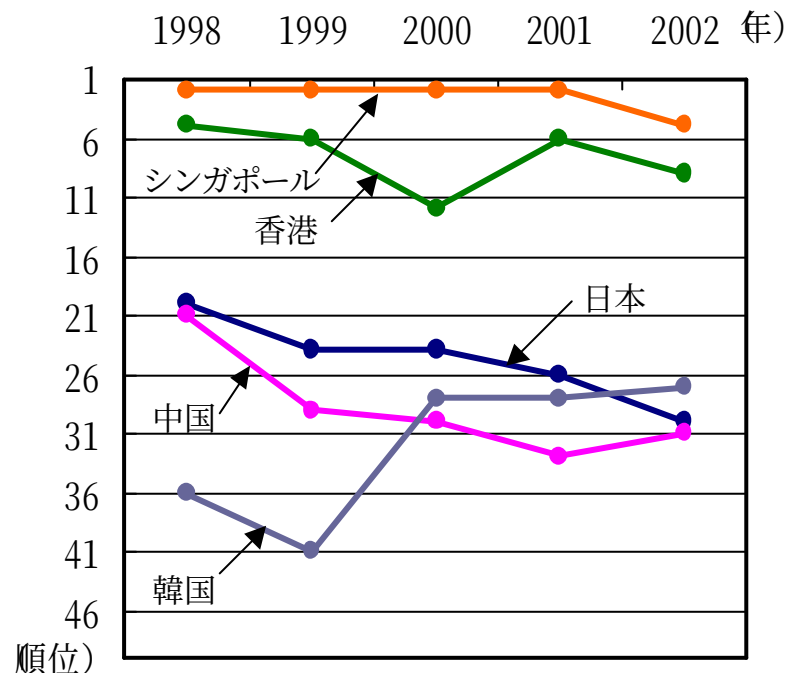
(注) ソウル：韓国電力公社 北京：北京市電力局  
上海：松江工業区  
シンガポール：ピーク時の価格  
横浜：2000年度電気事業便覧

出典)JETRO 「アジア主要都市・地域の投資関連コスト比較」(2001年11月調査)より国土交通省国土計画局作成。

# IMD国際競争力

IMD国際競争力年鑑において、日本の国際競争力は低下傾向で2002年は30位、韓国・マレーシアに抜かれた。内訳を項目別に見ると、受入旅行者、対内投資受入、外国人の雇用、大学と社会との関係、新規起業など今日的課題において、大きく後れをとっている。

東アジア各国のIMD国際競争力 総合ランキング)の推移



主に日本の評価が低い項目 (2002年)

|                         |
|-------------------------|
| 受入旅行者からの収入 (49位／49)     |
| 貿易額のGDP比 (49位／49)       |
| 対内直接投資受入額のGDP比 (47位／48) |
| 生活費 (47位／48)            |
| 平均法人税率 (46位／46)         |
| ブロック経済との統合性 (37位／49)    |
| 外国企業への差別 (47位／49)       |
| 外国人労働者の雇用 (49位／49)      |
| 社会的ニーズにあった大学教育 (49位／49) |
| 大学から企業への知識の移転 (41位／49)  |
| 新規起業の日常性 (49位／49)       |

注)

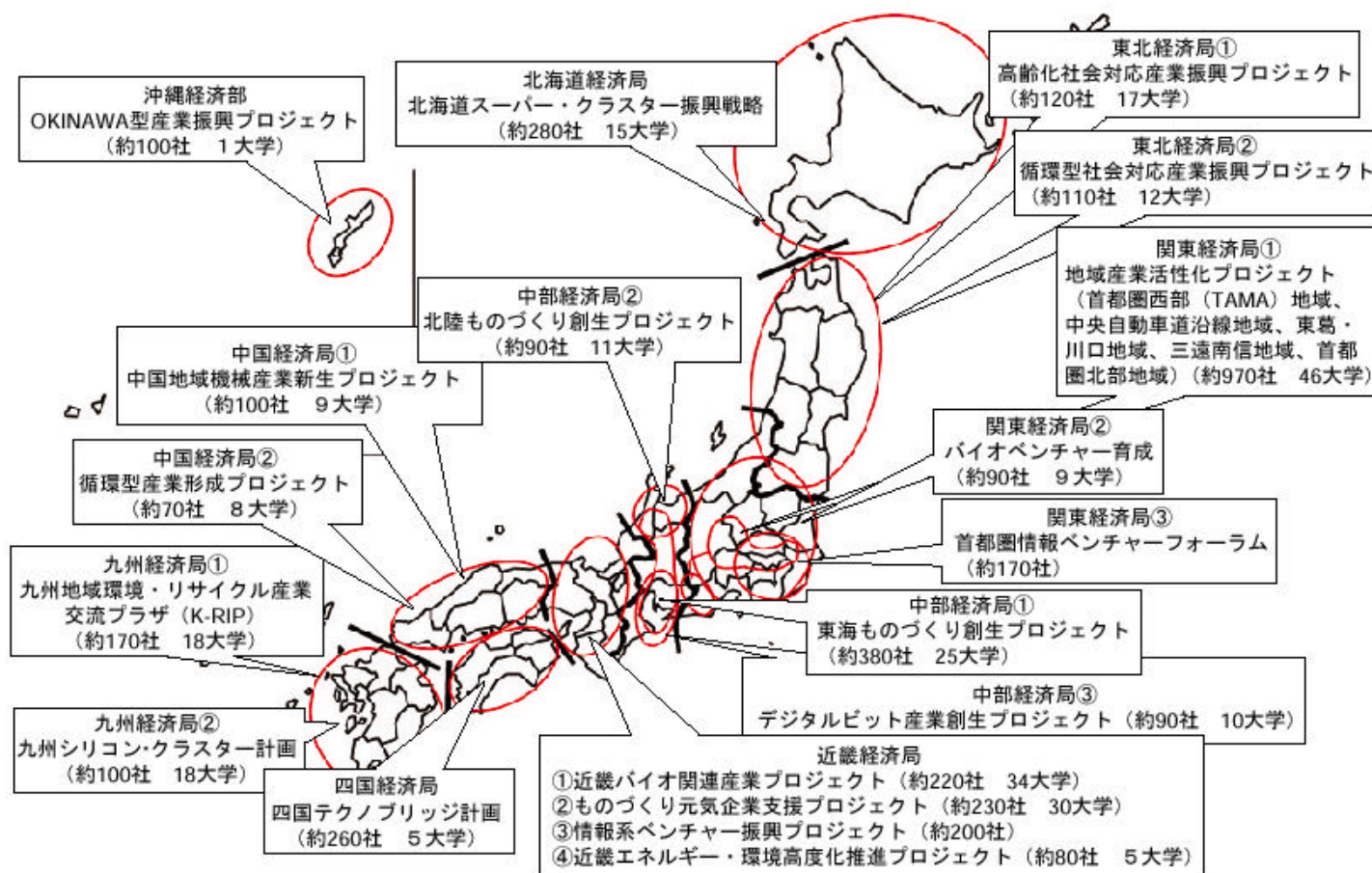
1. IMD(International Institute for Management Development) :スイスの国際的なビジネススクール。MBA コースで米国流のケーススタディをヨーロッパで本格的に採用していることが特長。
2. IMDの国際競争力年鑑は、企業経営者がグローバルな視点でどの国や地域に投資すべきかを検討するための資料。調査の客観性、公平性に若干の問題点が指摘されている。

(出典) IMD WORLD COMPETITIVENESS YEARBOOK 2002、未来生活懇談会資料より国土交通省国土計画局作成。

産業クラスター計画 経済産業省)

地域経済の再生には、地域において成長性ある新規分野を開拓する産業・企業の創出が必要であり、産学官の広域的人的ネットワークの形成、地域の特性を活かした技術開発の推進、起業家育成施設（インキュベータ）の整備等を行う。また、文部科学省所管の知的クラスター創成事業と連携を図っている。

産業クラスター計画（19プロジェクト）



備考：2002年9月26日現在。  
資料：経済産業省作成。

知的クラスター計画（文部科学省）

自治体の主体性を重視し、知的創造の拠点たる大学、公的研究機関等を核とし、研究機関、企業等が集積する研究開発能力の拠点の創成を目指す。本事業の実施主体に対する補助、知的クラスター本部の設置、科学技術コーディネーターの配置や「弁理士」等のアドバイザーの活用、企業ニーズを踏まえた新技術シーズを生み出す産学官共同研究の実施、研究成果の特許化及び育成に係る研究開発等を行う。



出典：文部科学省資料



# 承認TLO(33機関)の分布

TLOは、大学における技術に関する研究成果を、特許制度等を活用することによって民間事業者に移転し、社会における有効活用を促進するとともに、その結果得られる資金等を大学に還流することにより、大学における研究の進展に資するものである。承認を受けた事業者（承認TLO）は、助成金交付、債務保証、技術移転先企業に対する中小企業投資育成株式会社法の特例等の支援措置を受けることができる。



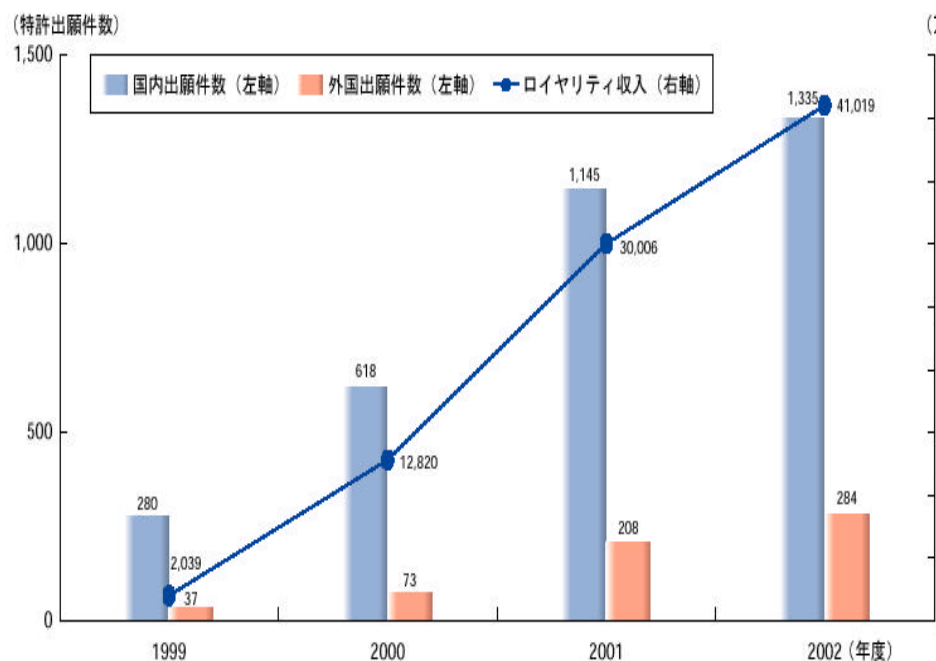
備考：2003年5月現在。（ ）内は主な提携大学。  
資料：経済産業省作成。

出典：2003年版製造基盤白書を元に国土交通省国土計画局作成

承認TLOの特許出願件数とロイヤリティ収入の推移、国立大学等における企業との共同研究件数の推移

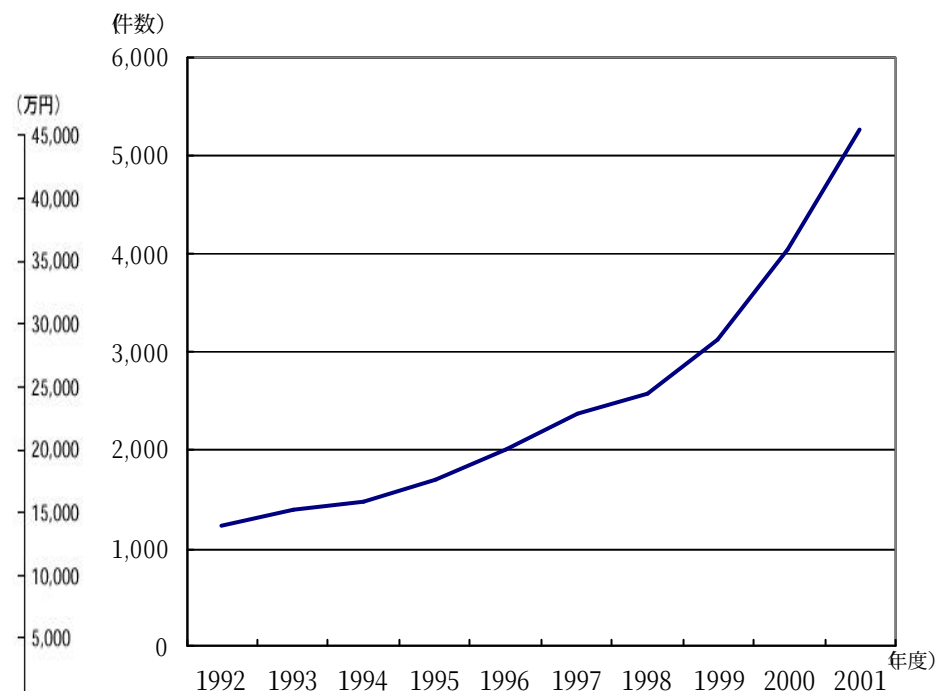
TLOによる活動成果は着実に増加している。国立大学等と企業との共同研究件数は増加傾向。

承認TLOの特許出願件数とロイヤリティ収入の推移



出典：2003年版製造基盤白書

国立大学等における企業との共同研究件数の推移



注)

1. 国立大学等：2001年度の実施機関は国立大学（87）、国立短期大学（1）、大学共同利用機関（11）、国立高等専門学校（40）。
2. 2001年度における件数については、2000年度より複数年度契約が可能となったため、前年度から契約期間が継続しているものを含む。

（出典）国立大学等の「企業との共同研究」の2001年度の実施状況について（文部科学省）より国土交通省国土計画局作成。

## グローバル観光戦略

日本人の海外旅行者に対して、我が国を訪れる外国人旅行者は、その4分の1の約500万人に過ぎないことから、その格差をできる限り早期に是正することを目的とし、「外国人旅行者訪日促進戦略」、「外国人旅行者受入戦略」、「観光産業高度化戦略」、「推進戦略」の4戦略を内容としている。

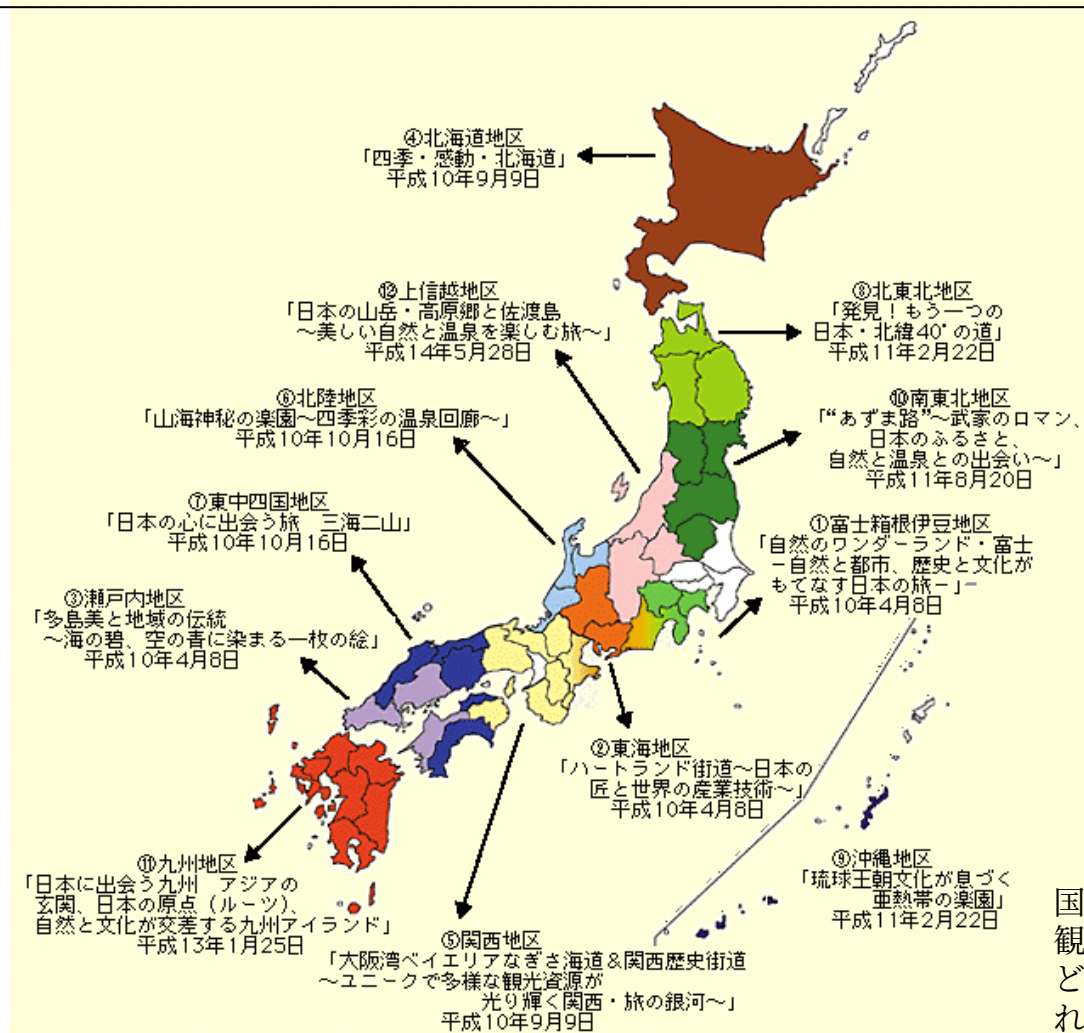
### グローバル観光戦略の具体的施策





## 国際観光テーマ地区の整備

多様な地域への外国人観光客の来訪を促進するため、外国人旅行者が3? 5泊程度で周遊できる観光ルートを整えた広域的な地域である外客来訪促進地域(国際観光テーマ地区)の整備が推進されている。

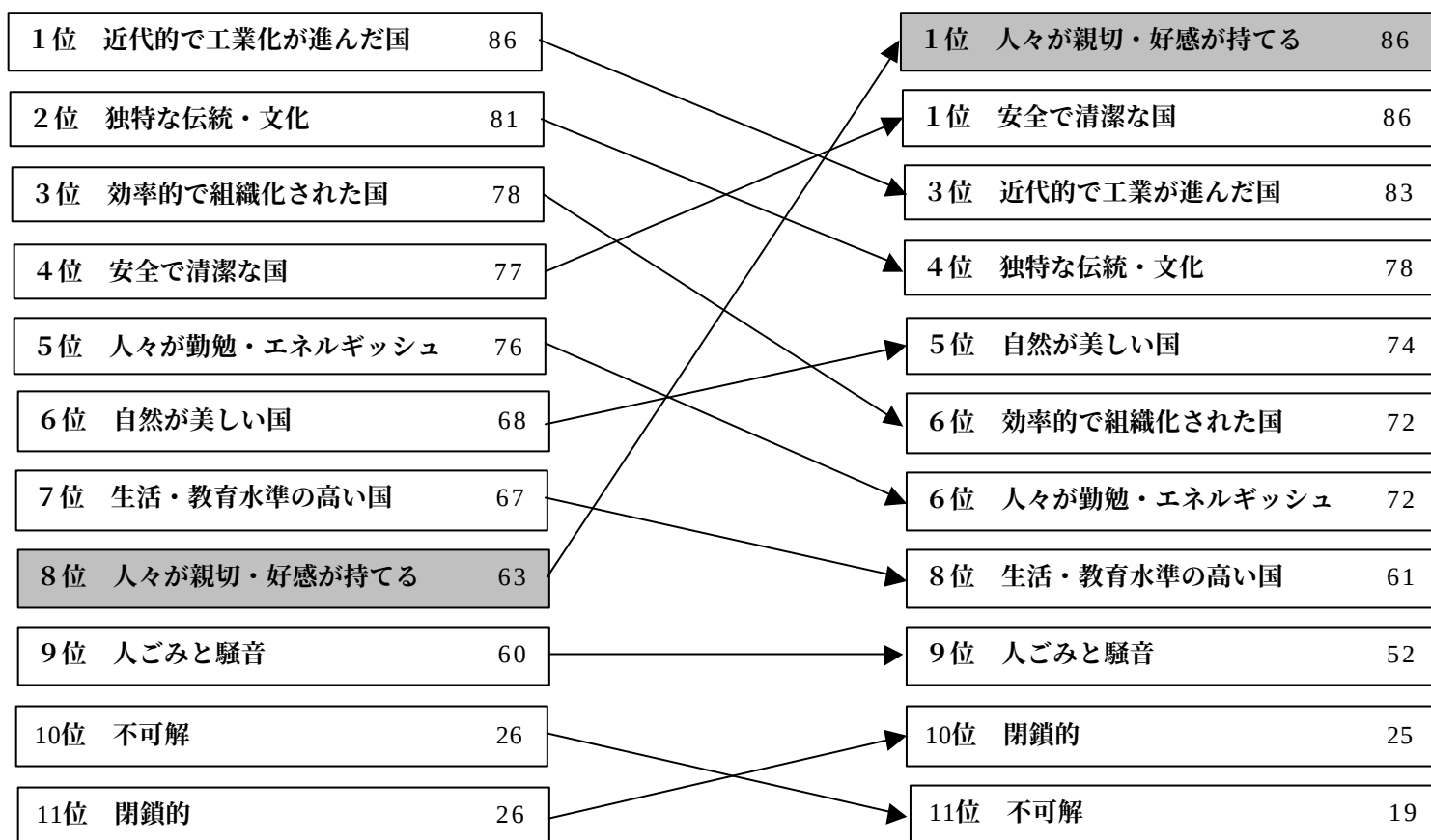


国際観光テーマ地区については、国際観光振興会による重点的海外宣伝など、関係者一体となった取組みが行われている。

出典 国土交通省資料

## 訪日前後の対日イメージ比較

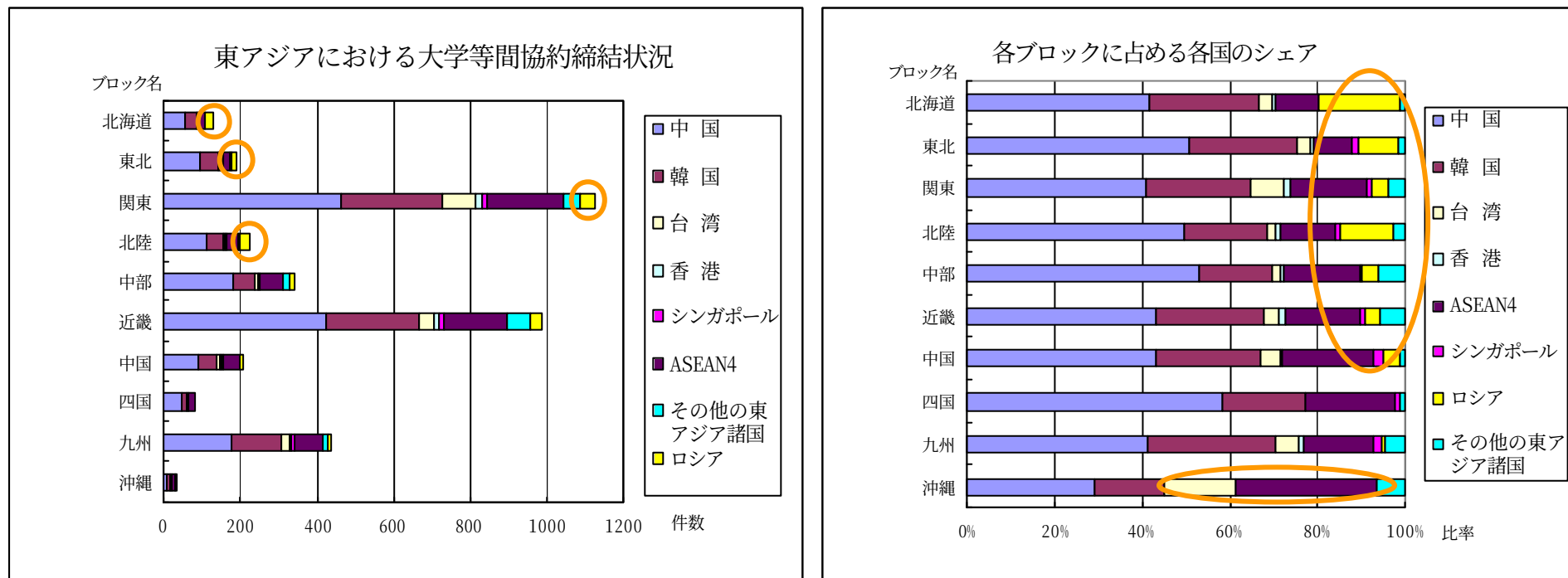
人々が親切・好感が持てる」が訪日前後で最もイメージが高まった項目であり、安全で清潔、自然が美しいといった項目も高まっている。一方、「独特な伝統・文化」イメージは順位を下げている。



(出典) 国際観光振興会 (JNTO) 資料より国土交通省国土計画局作成

## 大学等間協約締結状況

各ブロックともに中国、韓国の件数が多い。北日本を中心にロシアとの提携も少数ながら見られる。各ブロックごとに各国のシェアを見ると、東日本でロシアの比率が高く、沖縄で台湾、ASEAN4の比率が高くなっている。



(注1) 平成13年10月1日現在教員の、研究者及び学生等の交流、共同研究、その他を内容とする協約の件数について調査したものである。

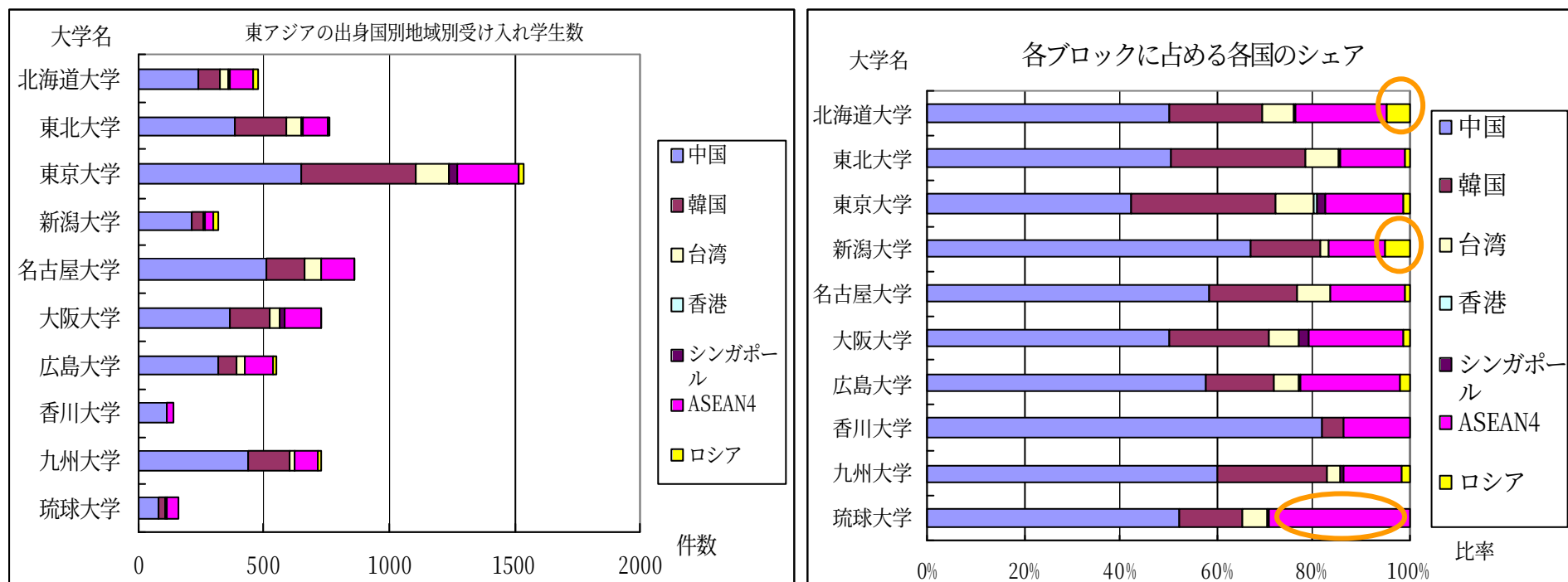
(注2) ASEAN4：タイ、マレーシア、インドネシア、フィリピン

(注3) その他の東アジア諸国：モンゴル、ベトナム、カンボジア、ブルネイ、マカオ、ロシア連邦、北朝鮮

北海道：北海道  
東北：青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島  
関東：茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川  
中部：山梨、長野、岐阜、静岡、愛知、三重  
北陸：新潟、富山、石川、福井  
近畿：滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山  
中国：広島、岡山、鳥取、島根、山口  
四国：徳島、香川、愛媛、高知  
九州：福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島  
沖縄：沖縄

## 出身国別地域別受け入れ学生数

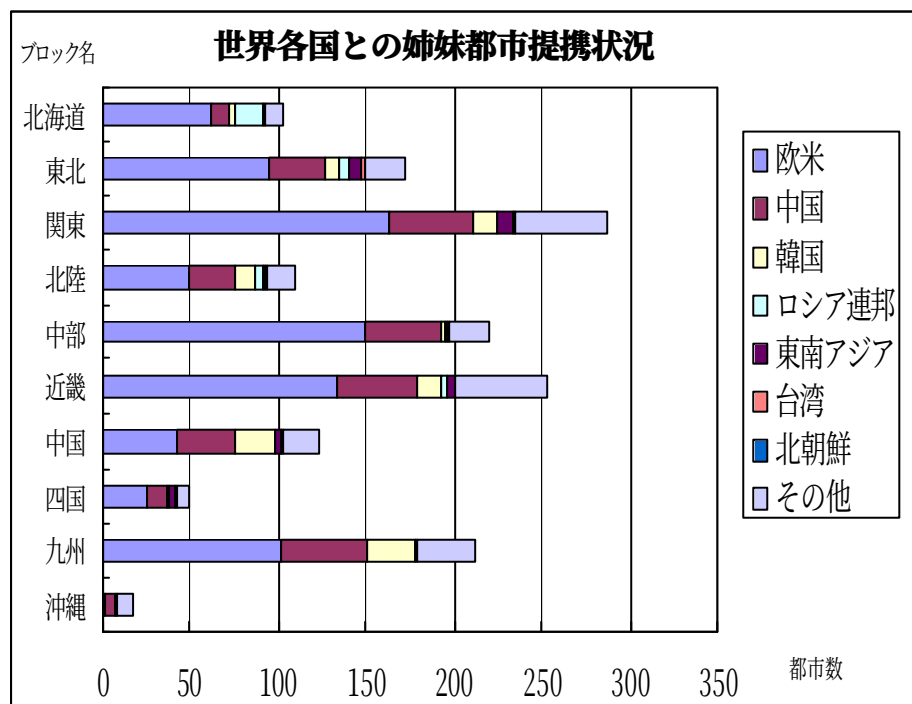
総数では、各地域とも中国、韓国が太宗を占めている。各ブロックごとに各国のシェアを見ると、北海道、北陸はロシアの比率が比較的高い。また、沖縄ではASEAN4の比率が高い。



注1)各ブロックで1大学ずつ抽出し、受け入れた留学生数について出身国別に集計した。  
 (注2)東北、東京、新潟、名古屋、広島、香川大学については平成15年5月1日現在。北海道、大阪、九州大学については平成14年5月1日現在。琉球大学については平成13年11月1日現在。

## 姉妹都市数

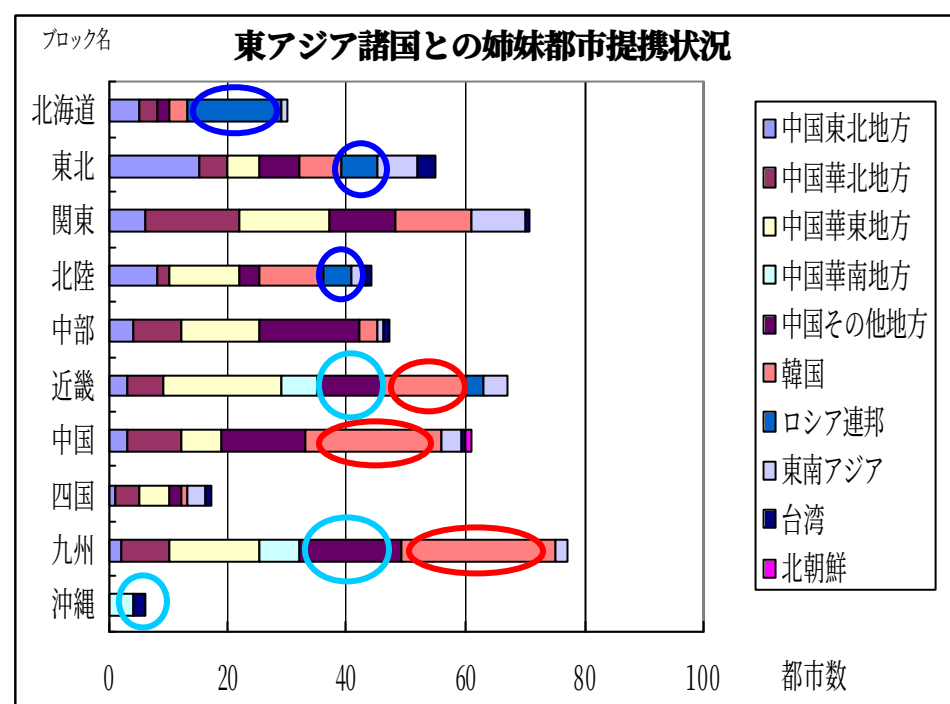
総数では関東が最も多いが、アジアとの提携は九州が最も多い。北海道、東北、北陸などの日本海側に面したブロックはロシア連邦との提携が多い。中国、九州を始めとして、西日本は韓国との提携が比較的多い。また、近畿、九州、沖縄は中国華南地方との提携が比較的多い。



注1) 都市数は都道府県、市町村の合計を算出している。

注2) 平成15年7月1日現在の提携状況を表している。

注3) ロシア連邦は極東三州（サハリン州、沿海地方、ハバロフスク地方）を抽出している。



注4) ここでは、中国について下記の通り分類している。

中国東北地方：黒龍江省、吉林省、遼寧省

中国華北地方：北京市、天津市、河北省、山東省

中国華東地方：上海市、江蘇省、安徽省、浙江省

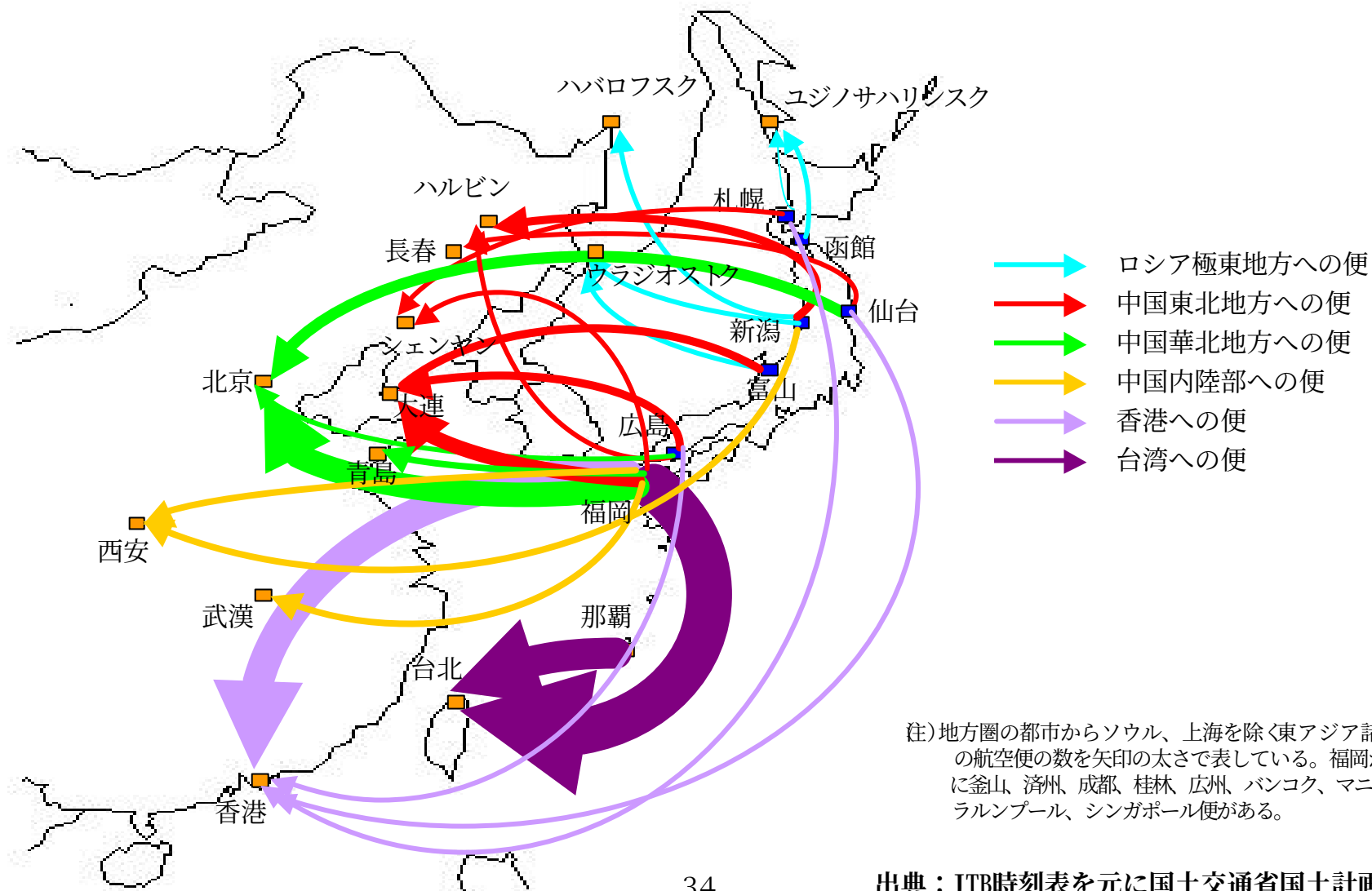
中国華南地方：福建省、広東省、海南省

中国内陸地域：上記以外の省、自治区

出典) 自治体国際化協会ホームページより国土交通省国土計画局作成

## 我が国の地方圏の都市と東アジアとの航空路の特長

ロシア極東地方へ北海道、北陸からの便がある。また福岡から中国内陸部に便がある。大連へは西日本からの便が比較的多い。

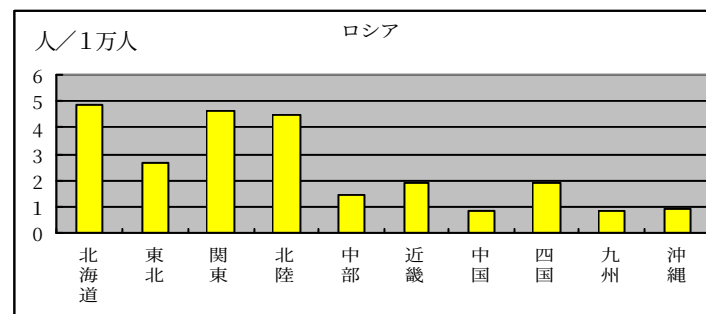
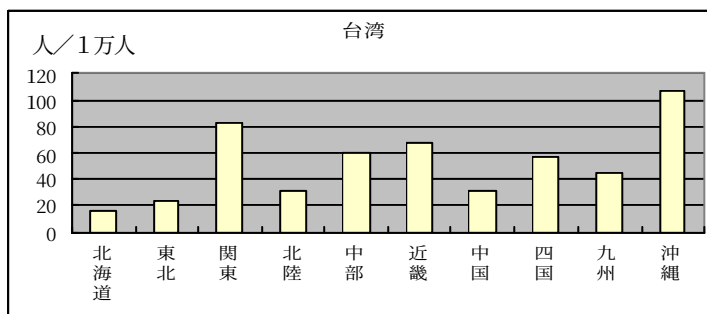
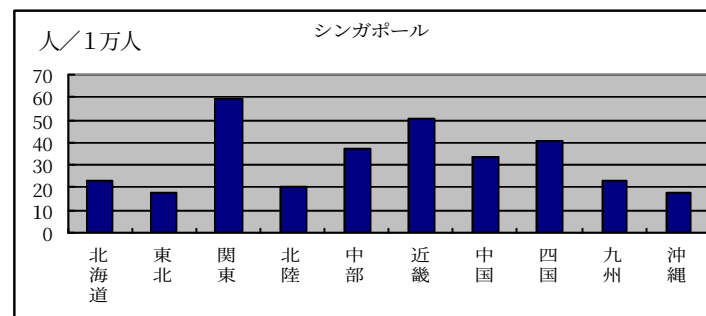
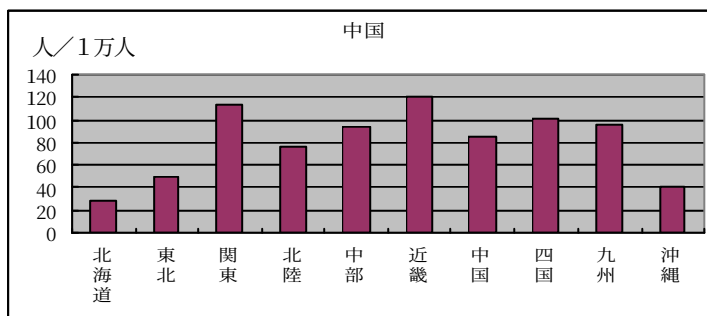
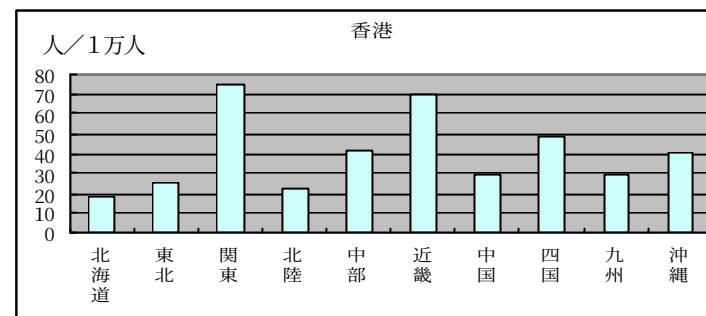
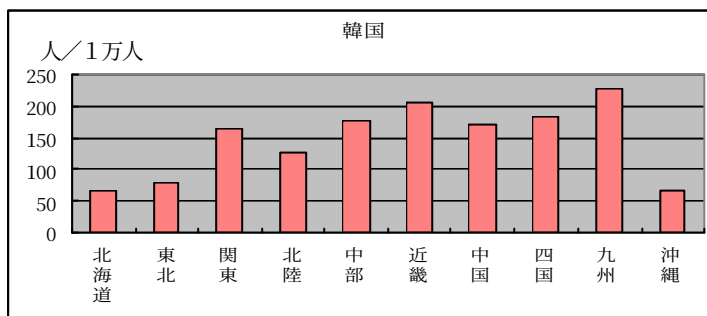




相手国別地域ブロック別 1万人あたり出国者数 (2000年)

韓国へは、九州が最も多く、また、西日本が多い傾向にある。その他、台湾へは、沖縄、ロシアは北海道、北陸をはじめ東日本が多いなど、地域的な特性が見られる。これに対し、香港、シンガポールは大都市圏が多く地域特性が薄い。

地域ブロック別 1万人あたり出国者数 (2000年)



## 地域別人口1万人あたり在留外国人数

近畿における韓国・朝鮮籍の在留者、中部における南米籍の在留者が際だって多い。ロシアは絶対数は少ないが、東日本に多い。中国、北米、欧州は関東をはじめとした三大都市圏で多い。

地域ブロック別1万人あたり在留外国人数（2000年）

